



表示...
SANtricity commands
NetApp
June 17, 2025

目次

表示.....	1
ドライブのダウンロード進行状況を表示する - SANtricity CLI	1
サポートされているアレイ	1
ロール	1
構文	1
パラメータ	1
注：	1
最小ファームウェアレベル	2
ドライブのパフォーマンス統計を表示する - SANtricity CLI	2
サポートされているアレイ	2
ロール	2
コンテキスト (Context)	2
構文	2
パラメータ	2
注：	3
最小ファームウェアレベル	3
ドライブの表示 - SANtricity CLI	4
サポートされているアレイ	4
ロール	4
コンテキスト (Context)	4
構文	5
パラメータ	5
注：	6
最小ファームウェアレベル	6
ホストポートの表示 - SANtricity CLI	7
サポートされているアレイ	7
ロール	7
コンテキスト (Context)	7
構文	7
パラメータ	7
注：	7
最小ファームウェアレベル	7
SNMPコミュニティを表示する - SANtricity CLI	8
サポートされているアレイ	8
ロール	8
コンテキスト (Context)	8
構文	8
パラメータ	8
注：	9

最小ファームウェアレベル	9
SNMPv3 USM ユーザーの表示 - SANtricity CLI	10
サポートされているアレイ	10
ロール	10
構文	10
パラメータ	11
最小ファームウェアレベル	12
アレイラベルの表示 - SANtricity CLI	12
サポートされているアレイ	12
構文	12
パラメータ	12
最小ファームウェアレベル	12
非同期ミラーグループの表示 - SANtricity CLI	13
サポートされているアレイ	13
ロール	13
コンテキスト (Context)	13
構文	13
パラメータ	13
最小ファームウェアレベル	14
非同期ミラーグループの同期の進行状況を表示する - SANtricity CLI	14
サポートされているアレイ	14
ロール	14
コンテキスト (Context)	14
構文	15
パラメータ	15
最小ファームウェアレベル	15
監査ログ設定の表示 - SANtricity CLI	15
サポートされているアレイ	15
ロール	16
構文	16
パラメータ	16
例	16
最小ファームウェアレベル	16
監査ログの概要を表示 - SANtricity CLI	16
サポートされているアレイ	16
ロール	16
構文	16
パラメータ	17
例	17
最小ファームウェアレベル	17
ブロックされたイベントを表示する - SANtricity CLI	17

サポートされているアレイ	17
コンテキスト (Context)	17
構文	17
例	18
パラメータ	18
最小ファームウェアレベル	18
証明書の表示 - SANtricity CLI	18
サポートされているアレイ	18
構文	18
パラメータ	18
最小ファームウェアレベル	18
整合性グループのスナップショットイメージを表示する - SANtricity CLI	19
サポートされているアレイ	19
ロール	19
構文	19
パラメータ	19
注:	20
最小ファームウェアレベル	21
ボリュームパリティチェックジョブの表示 - SANtricity CLI	21
サポートされているアレイ	21
ロール	21
構文	21
パラメータ	21
最小ファームウェアレベル	21
整合性グループの表示 - SANtricity CLI	22
サポートされているアレイ	22
ロール	22
構文	22
パラメータ	22
最小ファームウェアレベル	23
署名済み証明書の表示 - SANtricity CLI	23
サポートされているアレイ	23
ロール	23
構文	23
パラメータ	24
例	24
最小ファームウェアレベル	24
インストールされたルート/中間 CA 証明書の概要を表示する - SANtricity CLI	24
サポートされているアレイ	24
ロール	25
構文	25

パラメータ	25
例	25
最小ファームウェアレベル	26
コントローラの診断ステータスを表示する - SANtricity CLI	26
構文	26
パラメータ	26
最小ファームウェアレベル	27
コントローラのNVSRAMを表示する - SANtricity CLI	27
サポートされているアレイ	27
ロール	27
コンテキスト (Context)	27
構文	27
パラメータ	27
注:	28
コントローラの表示 - SANtricity CLI	28
サポートされているアレイ	28
ロール	28
コンテキスト (Context)	28
構文	29
パラメータ	29
注:	29
最小ファームウェアレベル	31
ディスクプールの表示 - SANtricity CLI	32
サポートされているアレイ	32
ロール	32
コンテキスト (Context)	32
構文	32
パラメータ	33
注:	33
最小ファームウェアレベル	33
ドライブチャネル統計情報の表示 - SANtricity CLI	33
サポートされているアレイ	33
ロール	33
コンテキスト (Context)	33
構文	33
パラメータ	34
注:	34
最小ファームウェアレベル	34
電子メールアラートの設定を表示する - SANtricity CLI	34
サポートされているアレイ	34
ロール	35

構文	35
パラメータ	35
例	35
最小ファームウェアレベル	35
現在の iSCSI セッションを表示する - SANtricity CLI	35
サポートされているアレイ	36
ロール	36
構文	36
パラメータ	36
例	36
注：	37
最小ファームウェアレベル	37
交換可能なドライブの表示 - SANtricity CLI	38
サポートされているアレイ	38
ロール	38
コンテキスト (Context)	38
構文	38
出力例	38
最小ファームウェアレベル	39
スナップショットグループの表示 - SANtricity CLI	39
サポートされているアレイ	39
ロール	39
構文	39
パラメータ	39
注：	40
最小ファームウェアレベル	41
スナップショットイメージを表示 - SANtricity CLI	41
サポートされているアレイ	42
ロール	42
特定のSnapshotイメージを表示するための構文	42
パラメータ	42
注：	43
最小ファームウェアレベル	43
スナップショットボリュームの表示 - SANtricity CLI	43
サポートされているアレイ	44
ロール	44
構文	44
パラメータ	44
注：	44
最小ファームウェアレベル	45
SNMP MIB II システムグループ変数を表示する - SANtricity CLI	45

サポートされているアレイ	45
ロール	45
構文	46
パラメータ	46
注：	46
最小ファームウェアレベル	46
SSD キャッシュ統計を表示する - SANtricity CLI	46
サポートされているアレイ	46
ロール	46
構文	46
パラメータ	47
注：	47
最小ファームウェアレベル	50
SSD キャッシュを表示 - SANtricity CLI	50
サポートされているアレイ	50
ロール	50
構文	50
パラメータ	50
注：	50
最小ファームウェアレベル	51
ストレージアレイの自動構成を表示する - SANtricity CLI	51
サポートされているアレイ	51
ロール	51
コンテキスト (Context)	51
構文	52
パラメータ	52
注：	54
ドライブとボリュームグループ	54
ホットスペア	56
セグメントサイズ	57
キャッシュ読み取りプリフェッチ	57
セキュリティタイプ	58
セキュアドライブ	58
コマンドの例	58
最小ファームウェアレベル	58
AutoSupport 構成の表示 - SANtricity CLI	58
サポートされているアレイ	58
ロール	59
コンテキスト (Context)	59
構文	59
パラメータ	59

最小ファームウェアレベル	60
ストレージアレイキャッシュミラーデータアシュアランスチェックの有効化を表示 - SANtricity CLI	61
サポートされているアレイ	61
ロール	61
構文	61
パラメータ	61
最小ファームウェアレベル	61
ストレージアレイコントローラのヘルスイメージを表示する - SANtricity CLI	61
サポートされているアレイ	61
ロール	61
コンテキスト (Context)	62
構文	62
パラメータ	62
最小ファームウェアレベル	62
ストレージアレイの DBM データベースを表示する - SANtricity CLI	62
サポートされているアレイ	62
ロール	62
構文	62
パラメータ	63
注：	63
最小ファームウェアレベル	63
ストレージアレイのディレクトリサービスの概要を表示する - SANtricity CLI	63
サポートされているアレイ	63
ロール	63
構文	63
パラメータ	64
例	64
ストレージアレイホストの接続レポートを表示する - SANtricity CLI	65
サポートされているアレイ	65
ロール	65
構文	65
パラメータ	65
最小ファームウェアレベル	65
ストレージアレイホストポロジの表示 - SANtricity CLI	65
サポートされているアレイ	65
ロール	65
構文	66
パラメータ	66
注：	66
最小ファームウェアレベル	67
ストレージアレイネゴシエーションのデフォルトを表示する - SANtricity CLI	67

サポートされているアレ	67
ロール	67
構文	67
パラメータ	67
注：	67
最小ファームウェアレベル	67
ストレージアレのLUNマッピングを表示する - SANtricity CLI	67
サポートされているアレ	68
ロール	68
コンテキスト (Context)	68
構文	68
パラメータ	68
注：	68
最小ファームウェアレベル	69
ストレージアレのODX設定を表示する - SANtricity CLI	69
サポートされているアレ	69
ロール	69
コンテキスト (Context)	69
構文	69
パラメータ	69
注：	69
最小ファームウェアレベル	70
ストレージアレの電源情報を表示する - SANtricity CLI	70
サポートされているアレ	70
ロール	70
構文	70
パラメータ	70
注：	70
最小ファームウェアレベル	70
証明書失効チェック設定を表示する - SANtricity CLI	71
サポートされているアレ	71
ロール	71
パラメータ	71
構文	71
最小ファームウェアレベル	71
ストレージアレのSyslog構成を表示する - SANtricity CLI	71
サポートされているアレ	71
ロール	72
構文	72
パラメータ	72
最小ファームウェアレベル	72

インストールされた信頼された CA 証明書の概要を表示する - SANtricity CLI	72
サポートされているアレイ	73
ロール	73
構文	73
パラメータ	73
例	73
最小ファームウェアレベル	74
未構成のイニシエーターを表示する - SANtricity CLI	74
サポートされているアレイ	74
ロール	74
構文	75
パラメータ	75
最小ファームウェアレベル	75
ストレージアレイの未構成の iSCSI イニシエーターを表示する - SANtricity CLI	75
サポートされているアレイ	75
ロール	75
構文	75
パラメータ	75
最小ファームウェアレベル	75
ストレージアレイの読み取り不可能なセクターを表示する - SANtricity CLI	76
サポートされているアレイ	76
ロール	76
コンテキスト (Context)	76
構文	76
パラメータ	76
最小ファームウェアレベル	76
ストレージアレイのユーザーセッションを表示する - SANtricity CLI	77
サポートされているアレイ	77
ロール	77
パラメータ	77
構文	77
最小ファームウェアレベル	77
ストレージアレイの表示 - SANtricity CLI	77
サポートされているアレイ	77
ロール	77
コンテキスト (Context)	77
構文	78
パラメータ	78
注：	81
最小ファームウェアレベル	85
同期ミラーリングボリュームの候補を表示する - SANtricity CLI	86

サポートされているアレイ	86
ロール	86
コンテキスト (Context)	86
構文	86
パラメータ	86
最小ファームウェアレベル	86
同期ミラーリングボリュームの同期の進行状況を表示する - SANtricity CLI	87
サポートされているアレイ	87
ロール	87
コンテキスト (Context)	87
構文	87
パラメータ	87
最小ファームウェアレベル	88
Syslog 設定の表示 - SANtricity CLI	88
サポートされているアレイ	88
ロール	88
構文	88
パラメータ	88
例	89
最小ファームウェアレベル	89
文字列を表示 - SANtricity CLI	89
サポートされているアレイ	89
ロール	89
構文	89
パラメータ	89
注：	90
最小ファームウェアレベル	90
ボリュームアクションの進行状況を表示する - SANtricity CLI	90
サポートされているアレイ	90
ロール	90
コンテキスト (Context)	90
構文	90
パラメータ	90
最小ファームウェアレベル	91
ボリュームパフォーマンス統計を表示する - SANtricity CLI	91
サポートされているアレイ	91
ロール	91
コンテキスト (Context)	91
構文	92
パラメータ	92
注：	92

最小ファームウェアレベル	93
ボリューム予約の表示 - SANtricity CLI	93
サポートされているアレイ	93
ロール	93
構文	93
パラメータ	94
最小ファームウェアレベル	94
ボリュームの表示 - SANtricity CLI	94
サポートされているアレイ	94
ロール	94
コンテキスト (Context)	94
構文	95
パラメータ	95
シンボリックボリュームの表示 - SANtricity CLI	96
サポートされているアレイ	96
ロール	96
構文	96
パラメータ	97
注：	97
最小ファームウェアレベル	98
ボリュームコピーのターゲット候補を表示する - SANtricity CLI	98
サポートされているアレイ	98
ロール	98
構文	98
パラメータ	98
ボリュームコピーソース候補の表示 - SANtricity CLI	99
サポートされているアレイ	99
ロール	99
構文	99
パラメータ	99
注：	99
ボリュームコピーの表示 - SANtricity CLI	99
サポートされているアレイ	99
ロール	100
コンテキスト (Context)	100
構文	100
パラメータ	100
ボリュームグループのエクスポート依存関係を表示する - SANtricity CLI	100
サポートされているアレイ	101
ロール	101
構文	101

パラメータ	101
注：	101
最小ファームウェアレベル	101
ボリュームグループのインポート依存関係を表示する - SANtricity CLI	101
サポートされているアレイ	101
ロール	102
構文	102
パラメータ	102
注：	102
最小ファームウェアレベル	102
ボリュームグループの表示 - SANtricity CLI	102
サポートされているアレイ	102
ロール	103
コンテキスト (Context)	103
構文	103
パラメータ	103
注：	103
最小ファームウェアレベル	104

表示...

ドライブのダウンロード進行状況を表示する - SANtricity CLI

「show allDrives downloadProgress」 コマンドは、「download drive firmware」 コマンドまたは「download storageArray driveFirmware」 コマンドの対象となるドライブのファームウェアダウンロードのステータスを返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
show allDrives downloadProgress
```

パラメータ

なし

注：

すべてのファームウェアダウンロードが正常に完了すると、このコマンドはSuccessfulを返します。ファームウェアダウンロードが1つでも失敗した場合、対象の各ドライブのファームウェアダウンロードのステータスが表示されます。このコマンドから返されるステータスを次の表に示します。

ステータス	定義（ Definition ）
「成功しました」	ダウンロードはエラーなしで完了しました。
「未試行」	ダウンロードは開始されませんでした。
「部分的なダウンロード」	ダウンロードが進行中です。
「失敗しました」	ダウンロードは完了しましたが、エラーがあります。

ドライブのパフォーマンス統計を表示する - SANtricity CLI

show allDrives performanceStats コマンドは、ドライブのパフォーマンスに関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ストレージアレイ内の各ドライブについて次の情報を返します。

- ドライブを含むストレージアレイ
- 現在のI/Oレイテンシ
- 最大I/Oレイテンシ
- 最小I/Oレイテンシ
- 平均I/Oレイテンシ

構文

```
show (allDrives |drive
[<em>trayID</em>,<em>drawerID</em>,<em>slotID</em>] | drives
[<em>trayID1</em>,<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>]) performanceStats
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allDrives」を参照してください	ストレージアレイ内のすべてのドライブに関する情報を返すための設定。

パラメータ	説明
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>

注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID)、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

次の例に示すように'show drive performanceStats'コマンドは'ドライブのパフォーマンス統計を返します

```
"Performance Monitor Statistics for Storage Array: remote_pp -
Date/Time: 10/23/12 3:47:27 PM -
Polling interval in seconds: 5"

"Objects","Current IO Latency","Maximum IO Latency","Minimum IO Latency",
"Average IO Latency"

"Capture Iteration: 1","","","",""
"Date/Time: 10/23/12 3:47:27 PM","","","",""
"Drive Tray 0, Slot 1","0.0","0.0","0.0","0.0"
```

最小ファームウェアレベル

7.86

ドライブの表示 - SANtricity CLI

show allDrivesコマンドを実行すると、ストレージアレイ内のドライブに関する情報が返されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ストレージアレイ内の各ドライブについて次の情報を返します。

- ドライブの総数
- ドライブのタイプ (SASまたはNVMe4K)
- 基本ドライブに関する情報
 - トレイの場所とスロットの場所
 - ステータス
 - 容量
 - データ転送率
 - 製品ID
 - ファームウェアレベル
- SSDドライブの消耗度に関する情報 (アレイにSSDドライブが搭載されていない場合は表示されません)
 - 平均消去回数。
 - スペアブロックの残量
 - 使用済み寿命の割合 (11.41リリースの新機能)。使用済み寿命は、これまでにSSDドライブに書き込まれたデータ量を、ドライブの理論上の合計書き込み量で割った値です。
- ドライブチャネルに関する情報
 - トレイの場所とスロットの場所
 - 優先チャネル
 - 冗長チャネル
- ホットスペアの適用対象範囲
- 各ドライブの詳細



NVMeドライブの製造日情報は返されません。

構文

```
show <a id="__indexterm-1" type="indexterm">allDrives
[driveMediaType=(HDD | SSD | unknown | allMedia)] | [driveType=( SAS |
NVMe4K)] | (drive [<em>trayID</em>,<em>drawerID</em>,<em>slotID</em>] |
drives [<em>trayID1</em>,<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>]
summary
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allDrives」を参照してください	ストレージレイ内のすべてのドライブに関する情報を返すための設定。
driveMediaType	情報を取得するドライブメディアのタイプ。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• [HDD]--ドライブトレイにハードドライブがある場合は'このオプションを使用します• SSD'--ドライブトレイにソリッドステートドライブがある場合は'このオプションを使用します• 不明—どのタイプのドライブメディアがドライブトレイにあるかわからない場合は'このオプションを使用します• [allMedia]--ドライブトレイにあるすべてのタイプのドライブメディアを使用する場合に'このオプションを使用します
「ドライブタイプ」	情報を取得するドライブのタイプ。ドライブタイプを混在させることはできません。 有効なドライブタイプは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• 「SAS」• 「NVMe4K」 ドライブタイプを指定しない場合、このコマンドはデフォルトでany typeになります。

パラメータ	説明
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0～99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>
「概要」	指定したドライブのステータス、容量、データ転送率、製品ID、およびファームウェアバージョンを返すための設定。

注：

ストレージ・アレイ内のすべてのドライブのタイプと場所に関する情報を確認するには'allDrives'パラメータを使用します

ストレージアレイ内のSASドライブに関する情報を確認するには、「drivetype」パラメータを使用します。

特定の場所にあるドライブのタイプを確認するには'drive'パラメータを使用し'ドライブのトレイIDとスロットIDを入力します

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID)、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

最小ファームウェアレベル

5.43

7.60で'drawerID'ユーザー入力と'driveMediaType'パラメータが追加されました

8.41で、E2800、E5700、またはEF570システムのSSDドライブの消耗度レポート情報が追加されました。使用済み寿命の割合の形式で表示されます。

ホストポートの表示 - SANtricity CLI

「show allHostPorts」 コマンドは、設定されたホストポートに関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ストレージアレイに接続されているすべてのホストポートについて次の情報を返します。

- ホストポートの識別子
- ホストポート名
- ホストタイプ

構文

```
show allHostPorts
```

パラメータ

なし

注：

このコマンドから返されるHBAホストポート情報の例を次に示します。

HOST PORT IDENTIFIER	HOST PORT NAME	HOST TYPE
12:34:56:54:33:22:22:22	Jupiter1	Solaris
12:34:56:78:98:98:88:88	Pluto1	Windows 2000/Server 2003
Clustered		
54:32:12:34:34:55:65:66	Undefined	Undefined

最小ファームウェアレベル

5.40

SNMPコミュニティを表示する - SANtricity CLI

show allSnmCommunitiesコマンドは、ストレージレイに定義された簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）コミュニティに関する情報を返します。SNMPコミュニティは、ルータ、スイッチ、プリンタ、ストレージデバイスなどのデバイスの集合です。デバイスを管理および監視するためにグループ化されています。

サポートされているレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト（Context）

返される情報には次のものがあります。

- コミュニティの合計数
- トラップの送信先の合計数
- SNMPコミュニティの名前

構文

```
show (allSnmCommunities |
snmpCommunity communityName="snmpCommunityName" |
snmpCommunities [snmpCommunityName1 ...
snmpCommunityNameN])
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allSnmCommunities」を参照してください	ストレージレイ内のすべてのSNMPコミュニティに関する情報を返すためのパラメータ。
「CommunityName」の略	情報を取得するSNMPコミュニティの名前。SNMPコミュニティ名は二重引用符（"）で囲みます。

パラメータ	説明
「snmpCommunities」を参照してください	<p>情報を取得する複数のSNMPコミュニティの名前。以下のルールを使用して、SNMPコミュニティの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	<p>SNMPコミュニティの合計数とSNMPトラップの送信先の合計数のリストを返すためのパラメータ。このパラメータを使用すると、詳細情報はすべて省略されます。</p>

注：

SNMPは、マネージャと管理対象デバイスが属する1つ以上のコミュニティをサポートします。SNMP要求のデータパケットには、未加工のパスワードとして機能する_community string_inが含まれます。SNMPエージェントは、認識できないコミュニティストリングを含むGET要求やSET要求を拒否できます。コミュニティストリングは、エージェントからマネージャに送信されるトラップ通知にも含まれます。

組み込みのSNMPエージェントは、IPv4とIPv6の両方をサポートします。

このコマンドから返されるSNMPコミュニティ情報の例を次に示します。

```
SNMP COMMUNITIES-----
SUMMARY
  Total SNMP Communities: 2
  Total SNMP Trap Destinations: 1
DETAILS
  SNMP Community: TestComm1
  SNMP Permission: Read Only
    Associated Trap Destination:
      Trap Receiver IP Address: 10.113.173.133
      Send Authentication Failure Traps: true
  SNMP Community: Test2
  SNMP Permission: Read Only
    Associated Trap Destination:
```

最小ファームウェアレベル

8.30

SNMPv3 USM ユーザーの表示 - SANtricity CLI

「show allsnmpUsers」 コマンドは、ストレージアレイに対して定義された簡易ネットワーク管理（SNMP）USMユーザに関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

構文

```
show (allSnmpUsers |  
    snmpUser userName="snmpUsername" |  
    snmpUsers [snmpUserName1 ... snmpUserNameN])  
[summary]
```

このコマンドから返されるSNMPユーザ情報は次のようになります



```
SNMP USERS-----

SUMMARY

    Total SNMP Users: 2
    Total SNMP Trap Destinations: 1

DETAILS

    SNMP User: TestUser1
    SNMP Engine ID: local
    SNMP Permission: Read Only
    SNMP Authentication Protocol: sha
    SNMP Privacy Protocol: aes128

    Associated Trap Destination:

    Trap Receiver IP Address  Send Authentication Failure
Traps                        10.113.173.133                false

    SNMP User: TestUser2
    SNMP Engine ID: local
    SNMP Permission: Read Only
    SNMP Authentication Protocol: sha256
    SNMP Privacy Protocol: none

    Associated Trap Destination:
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allSnmpUsers」を参照してください	このパラメータは、ストレージレイ内のすべてのSNMPユーザに関する情報を返します。
「ユーザ名」	情報を取得するSNMPユーザの名前。SNMPユーザ名は二重引用符 (") で囲みます。

パラメータ	説明
「snmpUsers」	<p>情報を取得する複数のSNMPユーザの名前。以下のルールを使用して、SNMPユーザの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（"）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	<p>SNMPユーザの総数とSNMPトラップの送信先の合計数のリストを返すためのパラメータ。このパラメータを使用すると、詳細情報はすべて省略されます。</p>

最小ファームウェアレベル

8.72

アレイラベルの表示 - SANtricity CLI

Show array label' コマンドは'ストレージ・アレイ・ラベルが定義されているか'または既存のすべてのストレージ・アレイ・ラベルが定義されているかを示す情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、EF600およびEF300ストレージアレイを環境 します。

構文

```
show storageArrayLabel label <em>userDefinedString</em>
show storageArrayLabel all
```

パラメータ

パラメータ	説明
「userDefinedString」	<p>ストレージアレイのユーザ定義のラベルを指定できます。</p>

最小ファームウェアレベル

8.60

非同期ミラーグループの表示 - SANtricity CLI

「show asyncMirrorGroup summary」 コマンドは、1つ以上の非同期ミラーグループの設定情報を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドでは、不完全な非同期ミラーペアも含め、各非同期ミラーグループに関連付けられている非同期ミラーペアも表示されます。

このコマンドを使用して、非同期ミラーグループ内のすべてのミラーペアについて、定期的なデータ同期の進捗状況を表示することもできます。

構文

```
show (allAsyncMirrorGroups |  
  asyncMirrorGroup [<em>asyncMirrorGroupName</em>] |  
  asyncMirrorGroups [<em>asyncMirrorGroupName1</em> ...  
  <em>asyncMirrorGroupNameN</em>])  
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allAsyncMirrorGroups」を参照してください	このパラメータを使用して、すべての非同期ミラーグループのプロパティを表示します。
「asyncMirrorGroup」	設定情報および定期的なデータ同期の進捗状況を表示する非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。非同期ミラーグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、非同期ミラーグループ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroups」を参照してください	<p>情報を取得する複数の非同期ミラーグループの名前。以下のルールを使用して、非同期ミラーグループの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>非同期ミラーグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	このパラメータは、1つ以上の非同期ミラーグループについて、同期の進捗状況の概要を表示します。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

非同期ミラーグループの同期の進行状況を表示する - SANtricity CLI

「show asyncMirrorGroup synchronizationProgress」コマンドは、ローカルストレージアレイとリモートストレージアレイ間の非同期ミラーグループの_PERIODIC_SYNCHRONIZATIONの進捗状況を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

このコマンドは、非同期ミラーグループ内のすべてのミラーペアについて、データ同期の進捗状況を返します。このコマンドの進捗状況は、完了したデータ同期の割合で示されます。



同期には、初期同期と定期的同期の2種類があります。初期非同期ミラー・グループ同期の進行状況は'*Long Running Operations*ダイアログに表示され'show storageArray longRunningOperations'コマンドを実行することによって表示されます

構文

```
show asyncMirrorGroup [<em>asyncMirrorGroupName</em>]
[synchronizationProgress]
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「asyncMirrorGroup」	ローカルとリモートのストレージアレイ間の非同期ミラーグループの同期を表示する非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は角カッコ（[]）で囲みます。非同期ミラーグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、非同期ミラーグループ名を二重引用符（""）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「synchronizationProgress」と入力します	このパラメータは、非同期ミラーグループの定期的な同期の進捗状況を表示します。
「概要」	このパラメータは、ローカルとリモートのストレージアレイ間の非同期ミラーグループの同期に関する概要を表示します。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

監査ログ設定の表示 - SANtricity CLI

show auditLog configurationコマンドを使用すると、ストレージ・アレイの監査ログ設定が表示されます

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show auditLog configuration
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "show auditLog configuration;"

Logging level: All
Full policy: Overwrite
Maximum records: 30,000 count
Warning threshold: 90 percent

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

監査ログの概要を表示 - SANtricity CLI

show auditLog summaryコマンドは'監査ログの概要情報を表示します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show auditLog summary
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "show auditLog summary;"

Total log records: 1,532
First log record: 1493070393313 (2017-04-24T16:46:33.313-0500)
Last log record: 1493134565128 (2017-04-25T10:36:05.128-0500)

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

ブロックされたイベントを表示する - SANtricity CLI

「show blockedEventAlertList」コマンドは、「set blockEventAlert」コマンドによって現在ブロックされているイベントのリストを返します。このリスト内のイベントは、アラートの端末とパラメータ、つまりEメール、syslog、トラップの通知を使用して設定した通知を送信しないイベントです。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E2700とE5600のストレージアレイにのみ適用されます。

コンテキスト (Context)



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません。

構文

```
show blockedEventAlertList
```

例

出力には、ブロックされたイベントごとに1行があり、16進数形式でイベントの種類とイベントの概要が表示されます。出力の例を次に示します。

```
Executing Script...
0x280D Enclosure Failure
0x282B Tray Redundancy Lost
Script execution complete.
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.10で

証明書の表示 - SANtricity CLI

[Show certificates]コマンドを使用すると、CLIパッケージの信頼ストアにインストールされている証明書を表示できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、EF600およびEF300ストレージアレイを環境します。

構文

```
show localCertificate all | alias alias
```

パラメータ

パラメータ	説明
「alias」	ユーザ定義のエイリアスを使用して証明書を指定できます。

最小ファームウェアレベル

8.60

整合性グループのスナップショットイメージを表示する - SANtricity CLI

「show CGSnapImage」コマンドは、1つ以上のSnapshot整合性グループに含まれる1つまたは複数のSnapshotイメージを表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
show ((CGSnapImage [(<CGSnapImageName> |  
<em>CGSnapImageSequenceNumber</em>)] ) |  
(CGSnapImages [(<CGSnapImageNumber1> ...  
<em>CGSnapImageNumbern</em> |  
<em>CGSnapImageSequenceNumber1</em> ...  
<em>CGSnapImageSequenceNumbern</em>)] ) |  
allCGSnapImages  
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「CGSnapImage」または「CGSnapImages」	<p>整合性グループ内のSnapshotイメージの名前。Snapshotイメージの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 整合グループの名前 • 整合性グループ内のSnapshotイメージの識別子。 <p>Snapshotイメージの識別子には次のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 整合性グループ内のSnapshotのシーケンス番号である整数値。 • 最新—コンシステンシ・グループで作成された最新のスナップショット・イメージを表示する場合に'このオプションを使用します • oldest --コンシステンシ・グループで作成された最も古いスナップショット・イメージを表示する場合に'このオプションを使用します <p>Snapshotイメージ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。</p> <p>複数のSnapshotイメージ名またはシーケンス番号を入力できます。すべてのSnapshotイメージ名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。Snapshotイメージ名はそれぞれスペースで区切ります。</p>
「allCGSnapImages」を参照してください	整合性グループのすべてのSnapshotイメージを返すための設定。
「概要」	ストレージレイ内のすべてのSnapshotイメージの概要情報をリストで返すための設定。

注：

Snapshotイメージの名前は、次の2つの部分がコロン (:) で区切られています。

- Snapshot整合性グループの識別子
- Snapshotイメージの識別子

たとえば、Snapshot整合性グループsnapCGroup1内のSnapshotイメージ12345を表示する場合は、次のコマンドを使用します。

```
show CGsnapImage ["snapCGroup1:12345"];
```

Snapshot整合性グループsnapCGroup1内の最も新しいSnapshotイメージを表示する場合は、次のコマンドを使用します。

```
show CGsnapImage ["snapCGroup1:newest"];
```

複数のSnapshot整合性グループsnapCGroup1、snapCGroup2、snapCGroup3内のSnapshotイメージを表示するには、次のコマンドを使用します。

```
show CGsnapImages ["snapCGroup1:12345 snapCGroup2:newest  
snapCGroup3:oldest"];
```

上記の例では、Snapshot整合性グループの名前とSnapshotイメージの識別子がコロン（:）で区切られています。

最小ファームウェアレベル

7.83

ボリュームパリティチェックジョブの表示 - SANtricity CLI

。 show check volume parity jobs コマンドは、すべてのボリュームチェックパリティジョブとそのステータスを表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
show check volume parity jobs;
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

11.80

整合性グループの表示 - SANtricity CLI

「show consistencyGroup」コマンドは、1つ以上のコンシステンシグループに関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
show (allConsistencyGroups | consistencyGroup
[<em>consistencyGroupName</em>] |
consistencyGroups [<em>consistencyGroupName1</em> ...
<em>consistencyGroupNameN</em>])
[(summary | schedule)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allConsistencyGroups」	ストレージアレイ内のすべての整合性グループに関する情報を返すための設定。
「consistencyGroup」	情報を取得する整合性グループの名前。整合性グループ名は角かっこ ([]) で囲みます。整合性グループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、整合性グループ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「consistencyGroups」	<p>情報を取得する複数の整合性グループの名前。すべてのボリュームに同じプロパティが適用されます。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	整合グループに関する概要情報をリストで返すための設定。
「スケジュール」	このパラメータは、整合性グループのスケジュールに関する情報を返します。

最小ファームウェアレベル

7.83

署名済み証明書の表示 - SANtricity CLI

show controller arrayManagementSignedCertificate summary コマンドは、指定されたコントローラからの現在の署名付き証明書の概要を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show controller [(a|b)] arrayManagementSignedCertificate summary
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	ルート/中間証明書を取得するコントローラを指定できます。有効なコントローラ識別子は、aまたはbで、aはスロットAのコントローラ、bはスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。

例

出力例は、以下に示すものと異なる場合があります。

```
SMcli -n Array1 -c "show controller[a] arrayManagementSignedCertificate
all summary;"

=====
Controller A Signed Certificate
=====
Subject DN:    CN=Corp Issuing CA 1
Issuer DN:     CN=Corp Root CA
Start:         <date>
Expire:        <date>

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

インストールされたルート/中間 **CA** 証明書の概要を表示する - **SANtricity CLI**

「show controller cAcertificate」コマンドは、指定されたコントローラからインストールされたCA証明書の要約を表示します。このコマンドは「delete controller cAcertificate」コマンドを実行する前に使用すると、削除する証明書のエイリアス名を知ることができます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show controller [(a|b)] caCertificate [all | aliases=("alias1"  
... "aliasN")] summary
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	ルート/中間証明書を取得するコントローラをユーザが指定できます。有効なコントローラ識別子は、aまたはbで、aはスロットAのコントローラ、bはスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角カッコ ([]) で囲みます。
「すべて」	すべてのルート/中間証明書を取得するように指定できます。
「別名」	取得するルート/中間証明書をエイリアスで指定できます。すべてのエイリアスをかっこで囲みます。複数のエイリアスを入力する場合は、エイリアスをスペースで区切ります。

例

```

SMcli -n Array1 -c "show controller[a] caCertificate all summary;"

SMcli -n Array1 -c "show controller[b] caCertificate alias=("myAlias"
"anotherAlias") summary;"
=====
Controller A Authority Certificates
=====
Alias:          19527b38-8d26-44e5-8c7f-5bf2ca9db7cf
Subject DN:     CN=My Corp Issuing CA 1
Issuer DN:      CN=My Corp Root CA
Start:          date
Expire:         date
-----
Alias:          myAliasName
Subject DN:     CN=My Corp Issuing CA 1
Issuer DN:      CN=My Corp Root CA
Start:          date
Expire:         date

SMcli completed successfully.

```

最小ファームウェアレベル

8.40

コントローラの診断ステータスを表示する - SANtricity CLI

show controller コマンドは 'start controller diagnostic' コマンドによって開始されたコントローラ診断のステータスを返します

診断が完了すると、診断テストの結果がすべて表示されます。診断テストが終了していない場合は、終了したテストの結果のみが表示されます。テストの結果は端末に表示されますが、ファイルに書き込むこともできます。

構文

```
show controller [(a| b)] diagnosticStatus [file=<em>filename</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	ストレージレイ内の特定のコントローラに関する情報を返すための設定。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。
'file'	診断テストの結果を格納するファイルの名前。このコマンドでは、ファイル名にファイル拡張子は自動的に付加されません。ファイル名を入力するときに拡張子を追加する必要があります。

最小ファームウェアレベル

7.70で、コントローラ診断ステータスの機能が追加されました。

コントローラのNVSRAMを表示する - SANtricity CLI

show controller NVSRAMコマンドはNVSRAMバイト値に関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

このコマンドは、指定したホストタイプのNVSRAMバイト値のリストを返します。オプションのパラメータを入力しない場合は、すべてのNVSRAMバイト値のリストが返されます。

構文

```
show (allControllers | controller [(a|b)])
NVSRAM [hostType=<em>hostTypeIndexLabel</em> | host="<em>hostName</em>"]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allControllers」	ストレージレイ内の両方のコントローラに関する情報を返すための設定。
「controller」と入力します	ストレージレイ内の特定のコントローラに関する情報を返すための設定。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。
「hostType」	ホストタイプのインデックスラベルまたはインデックス番号。使用可能なホストタイプ識別子のリストを生成するには、「show storageArray hostTypeTable」コマンドを使用します。
ホスト	コントローラに接続されているホストの名前。ホスト名は二重引用符（""）で囲みます。

注：

set controllerコマンドを使用してNVSRAM値を変更する前に'show controller NVSRAMコマンドを使用してNVSRAMの一部またはすべてを表示します。NVSRAMに変更を加える場合は、事前にテクニカルサポートに連絡して変更可能なNVSRAMの領域を確認してください。

コントローラの表示 - SANtricity CLI

show controllerコマンドは、コントローラに関する情報を返します。

サポートされているレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

このコマンドは、ストレージレイ内の各コントローラについて次の情報を返します。

- ステータス（オンラインまたはオフライン）
- 現在のファームウェアとNVSRAMの設定
- 保留中のファームウェア設定とNVSRAM設定（存在する場合）
- ボードID

- 製品ID
- 製品リビジョン
- シリアル番号
- 製造日
- キャッシュサイズまたはプロセッササイズ
- コントローラが設定されている日付と時刻
- 関連付けられているボリューム（優先所有者を含む）
- イーサネットポート
- 物理ディスクインターフェイス
- Fibre Channelホストインターフェイスのみに適用されるホストインターフェイス

構文

```
show (allControllers | controller [(a|b)])
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allControllers」	ストレージレイ内の両方のコントローラに関する情報を返すための設定。
「controller」と入力します	ストレージレイ内の特定のコントローラに関する情報を返すための設定。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです。コントローラの識別子は角カッコ ([]) で囲みます。
「概要」	ストレージレイ内の両方のコントローラに関する概要情報をリストで返すための設定。

注：

次に、show controllerコマンドによって返される情報の例を示します。この例で示されているのはあくまでも出力であり、ストレージレイ構成のベストプラクティスを示すものではありません。

```
Controller in slot A

Status: Online
Current configuration
Firmware version: 96.10.21.00
```

Appware version: 96.10.21.00
Bootware version: 96.10.21.00
NVSRAM version: N4884-610800-001
Pending configuration
Firmware version: Not applicable
Appware version: Not applicable
Bootware version: Not applicable
NVSRAM version: Not applicable
Transferred on: Not applicable
Board ID: 4884
Product ID: INF-01-00
Product revision: 9610
Serial number: 1T14148766
Date of manufacture: October 14, 2006
Cache/processor size (MB): 1024/128
Date/Time: Wed Feb 18 13:55:53 MST 2008
Associated Volumes (* = Preferred Owner):
1*, 2*, CTL 0 Mirror Repository*, Mirror Repository 1*,
JCG_Remote_MirrorMenuTests*
Ethernet port: 1
MAC address: 00:a0:b8:0c:c3:f5
Host name: ausctlr9
Network configuration: Static
IP address: 172.22.4.249
Subnet mask: 255.255.255.0
Gateway: 172.22.4.1
Remote login: Enabled
Drive interface: Fibre
Channel: 1
Current ID: 125/0x1
Maximum data rate: 2 Gbps
Current data rate: 1 Gbps
Data rate control: Switch
Link status: Up
Drive interface: Fibre
Channel: 2
Current ID: 125/0x1
Maximum data rate: 2 Gbps
Current data rate: 1 Gbps
Data rate control: Switch
Link status: Up
Drive interface: Fibre
Channel: 3
Current ID: 125/0x1
Maximum data rate: 2 Gbps
Current data rate: 1 Gbps

```

    Data rate control: Switch
    Link status: Up
Drive interface: Fibre
    Channel: 4
    Current ID: 125/0x1
    Maximum data rate: 2 Gbps
    Current data rate: 1 Gbps
    Data rate control: Switch
    Link status: Up
Host interface: Fibre
    Port: 1
    Current ID: Not applicable/0xFFFFFFFF
    Preferred ID: 126/0x0
    NL-Port ID: 0x011100
    Maximum data rate: 2 Gbps
    Current data rate: 1 Gbps
    Data rate control: Switch
    Link status: Up
    Topology: Fabric Attach
    World-wide port name: 20:2c:00:a0:b8:0c:c3:f6
    World-wide node name: 20:2c:00:a0:b8:0c:c3:f5
    Part type: HPFC-5200      revision 10
Host interface: Fibre
    Port: 2
    Current ID: Not applicable/0xFFFFFFFF
    Preferred ID: 126/0x0
    NL-Port ID: 0x011100
    Maximum data rate: 2 Gbps
    Current data rate: 1 Gbps
    Data rate control: Switch
    Link status: Up
    Topology: Fabric Attach
    World-wide port name: 20:2c:00:a0:b8:0c:c3:f7
    World-wide node name: 20:2c:00:a0:b8:0c:c3:f5
    Part type: HPFC-5200      revision 10

```

summaryパラメータを使用すると、ドライブチャネル情報とホストチャネル情報を含まない情報のリストが返されます。

show storageArrayコマンドは、コントローラに関する詳細情報も返します。

最小ファームウェアレベル

5.43で'summary'パラメータが追加されました

ディスクプールの表示 - SANtricity CLI

show diskPoolコマンドは'ディスク・プールに関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ディスクプールに関する次の情報を返します。

- ステータス（最適、デグレード、失敗、不明など）
- 合計容量
- 予約済み容量、使用可能容量、使用不可容量
- 使用済み容量、空き容量、使用率
- 現在の所有者（スロットAのコントローラまたはスロットBのコントローラ）
- ドライブメディア（SAS）
- ドライブメディアタイプ（HDDまたはSSD）
- ドライブインターフェイスタイプ（Fibre Channel、iSCSI、InfiniBand、SAS）
- トレイ損失の保護（yesまたはno）
- セキュリティ対応-ディスクプールがセキュリティ対応ドライブだけで構成されているかどうかを示します。セキュリティ対応ドライブには、FDEドライブとFIPSドライブがあります。
- セキュア-ディスクプールでドライブセキュリティがオンになっている（セキュリティ有効）かどうかを示します。
- 残り容量の通知設定（重大警告と早期警告）
- 優先度の設定
- 関連付けられているボリュームと空き容量
- 関連付けられているドライブ
- Data Assurance機能およびData Assuranceが有効なボリュームがある
- リソースプロビジョニング機能

構文

```
show diskPool [<em>diskPoolName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「diskPool」	情報を取得するディスクプールの名前。ディスクプール名は角かっこ（[]）で囲みます。ディスクプール名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ディスクプール名を二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

注：

このコマンドは、ストレージレイプロファイルのディスクプールに関する内容を表示する場合に使用します。

最小ファームウェアレベル

7.83

ドライブチャネル統計情報の表示 - SANtricity CLI

「show driveChannel stats」コマンドは、ドライブチャネルの累積データ転送とエラー情報を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト（Context）

コントローラが自動的にドライブチャネルをデグレードした場合、このコマンドは区間統計も表示します。このコマンドを使用すると、1つの特定のドライブチャネル、複数のドライブチャネル、またはすべてのドライブチャネルに関する情報を表示できます。

構文

```
show (driveChannel [(1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8)] |
      driveChannels [1 2 3 4 5 6 7 8] |
      allDriveChannels) stats
```

パラメータ

パラメータ	説明
driveChannel	<p>情報を表示するドライブチャンネルの識別番号。有効なドライブ・チャンネル値は'1'2'3'4'5'です '6'7'または'8'ドライブチャンネルは角かっこ（[]）で囲みます。</p> <p>このパラメータは、1つのドライブチャンネルの統計情報のみを表示する場合に使用します。</p>
「ドライブチャンネル」	<p>情報を表示する複数のドライブチャンネルの識別番号。有効なドライブ・チャンネル値は'1'2'3'4'5'です '6'7'または'8'ドライブチャンネルの値をスペースで区切って指定し、角かっこ（[]）で囲みます。</p> <p>このパラメータは、複数のドライブチャンネルの統計を表示する場合に使用します。</p>
「allDriveChannels」のようになります	ドライブチャンネルをすべて選択する識別子。

注：

なし

最小ファームウェアレベル

6.10

7.15で、ドライブチャンネル識別子の更新が追加されました。

電子メールアラートの設定を表示する - SANtricity CLI

「show emailAlert summary」コマンドは、電子メールアラートの設定情報を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show emailAlert summary
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "show emailAlert summary;"
```

```
EMAIL ALERT SETTINGS
```

```
Mail server address: email@company.com
```

```
Mail server encryption: starttls
```

```
Mail server port: 587
```

```
Mail server user name: accountName
```

```
Mail server password: secret123
```

```
Email sender address: no-reply@company.com
```

```
Recipient Email
```

```
recipient@company.com
```

```
recipient-two@company.com
```

```
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

SMTP暗号化を指定するパラメータ（none、smtps、STARTTLS）、SMTPポート、およびSMTPクレデンシャル（ユーザ名とパスワード）を11.70.01に追加しました。

現在の iSCSI セッションを表示する - SANtricity CLI

show iscsiSessionsコマンドはiSCSIイニシエータまたはiSCSIターゲットのiSCSIセッションに関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
show iscsiInitiator ["<em>initiatorName</em>" | "<iqn>"] iscsiSessions
```

```
show iscsiTarget ["<em>targetName</em>" | "<iqn>"] iscsiSessions
```

パラメータ

パラメータ	説明
「iscsiInitiator」と入力します	<p>セッション情報を取得するiSCSIイニシエータの名前。</p> <p>iSCSIイニシエータがラベルまたはエイリアスを使用している場合は、そのラベルまたはエイリアスを二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。</p> <p>iSCSIイニシエータがiSCSI修飾名 (IQN) を使用している場合は、IQNを二重引用符 (") で囲んだ上で山かっこ (< >) で囲みます。</p>
「iscsiTarget」と入力します	<p>セッション情報を取得するiSCSIターゲットの名前。</p> <p>iSCSIターゲットがラベルまたはエイリアスを使用している場合は、iSCSIターゲットラベルまたはエイリアスを二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。</p> <p>iSCSIターゲットがiSCSI修飾名 (IQN) を使用している場合は、IQNを二重引用符 (") で囲んだ上で山かっこ (< >) で囲みます。</p>

例

Retrieve initiator:

```
SMcli -n Array1 -u admin@local -p adminPassword -k -c "show iscsiSessions;"
```

Initiator information:

Host user label:	bbb000b00b0
Host port user label:	bbb000b00b0b0
Name:	iqn.0b0b-0b.com:b0b0b0b0b0b0
Alias:	None

Host port user label:

```
SMcli -n Array1 -u admin@local -p adminPassword -k -c "show iscsiInitiator [\"bbb000b00b0b0\"] iscsiSessions;"
```

IQN:

```
SMcli -n Array1 -u admin@local -p adminPassword -k -c "show iscsiInitiator <\"iqn.0b0b-0b.com:b0b0b0b0b0b0\"> iscsiSessions;"
```

注：

このコマンドを引数なしで入力すると、現在実行中のすべてのiSCSIセッションに関する情報が返されます。次のコマンドは、現在のすべてのiSCSIセッションに関する情報を返します。

```
show iscsiSessions
```

情報を限定するには、特定のiSCSIイニシエータまたはiSCSIターゲットを入力します。このコマンドは、指定したiSCSIイニシエータまたはiSCSIターゲットのセッションに関する情報のみを返します。

イニシエータ名は、1~30文字の英数字を任意に組み合わせて指定できます。IQNは255文字以内で指定し、次の形式を使用します。

```
iqn.yyyy-mm.naming-authority:unique name
```

最小ファームウェアレベル

7.10

交換可能なドライブの表示 - SANtricity CLI

show replaceableDrivesコマンドを使用すると、ストレージレイ内の交換可能ドライブがすべて表示されます。

サポートされているレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ストレージレイ内の各交換可能ドライブについて次の情報を返します。

- トレイの場所とスロットの場所
- ドライブが属するボリュームグループの名前
- WWN (World Wide Name)
- ドライブのステータス

構文

```
show replaceableDrives
```

出力例

```
Replaceable drive at Tray 0, Slot 3
    Volume group: 2
    World-wide name: 5000c50028785aff00000000000000000
    Status: Removed
Replaceable drive at Tray 0, Slot 23
    Volume group: 2
    World-wide name: 5000c500095d46df00000000000000000
    Status: Removed
Replaceable drive at Tray 0, Slot 24
    Volume group: 2
    World-wide name: 5000c500287854d70000000000000000
    Status: Removed
```

スナップショットグループの表示 - SANtricity CLI

「show snapGroup」 コマンドは、1つ以上のSnapshotイメージ・グループに関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
show (allSnapGroups | snapGroup [snapGroupName] |
snapGroups ["snapGroupName1" ... "snapGroupName"])
[summary | schedule]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allSnapGroups」を参照してください	ストレージアレイ内のすべてのSnapshotグループに関する情報を返すためのパラメータ。
「SnapGroup」	情報を取得するSnapshotグループの名前。Snapshotグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。Snapshotグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、Snapshotグループ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「snapGroups」を参照してください	<p>情報を取得する複数のSnapshotグループの名前。以下のルールを使用して、Snapshotグループの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>Snapshotグループ名に特殊文字が含まれている場合や、数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	Snapshotグループに関する概要情報をリストで返すための設定。
「スケジュール」	Snapshotグループのコピー処理のスケジュールに関する概要情報をリストで返すための設定。

注：

名前には、英数字、アンダースコア（_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

このコマンドから返されるSnapshotグループ情報の例を次に示します。

```
SNAPSHOT GROUP DETAILS
```

```
SNAPSHOT GROUPS-----
```

```
SUMMARY
```

```
Total Snapshot Groups: 1
Total Snapshot Images: 0
Enabled Snapshot Image Schedules: 0
Status: 1 Optimal, 0 Non Optimal
```

Name	Type	Status	Associated Base Volume
2_SG_01	Standard	Optimal	2

Total Repository Capacity Limit	Available Repository Capacity	Snapshot Image
10.318 GB	10.318 GB (100%)	0

Snapshot Images	Scheduled
0	No

DETAILS

Snapshot Group "2_SG_01"

Status: Optimal
Type: Standard
Associated base volume: 2
Cluster size: 65,536 bytes

Repository

Total repository volumes: 3
Aggregate repository status: Optimal
Total repository capacity: 10.318 GB
Used capacity: 0.000 MB (0%)
Available repository capacity: 10.318 GB (100%)
Repository full policy: Auto-purge Snapshot Images
Utilization alert threshold: 75%

Snapshot images

Total Snapshot images: 0
Auto-delete Snapshot images: Disabled
Snapshot image schedule: Not Applicable

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットイメージを表示 - SANtricity CLI

「show snapImage」 コマンドは、ユーザが以前に作成したSnapshotイメージに関する

情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

特定の**Snapshot**イメージを表示するための構文

```
show (allSnapImages | snapImage ["<em>snapImageName</em>"] |
snapImages ["<em>snapImageName1</em>" ... "<em>snapImageNamen</em>"])
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allSnapImages」	ストレージアレイ内のすべてのSnapshotイメージに関する情報を返すためのパラメータ。
「SnapImage」	<p>情報を取得するSnapshotイメージの名前。Snapshotイメージの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• Snapshotグループの名前• Snapshotグループ内のSnapshotイメージの識別子 <p>Snapshotイメージの識別子には次のいずれかを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none">• Snapshotグループ内のSnapshotのシーケンス番号である整数値。• 最新—スナップショットグループで作成された最新のスナップショットイメージを表示する場合に'このオプションを使用します• oldest --スナップショットグループで作成された最も古いスナップショットイメージを表示する場合に'このオプションを使用します <p>Snapshotイメージ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。</p>

パラメータ	説明
「snapImages」	<p>情報を取得する複数のSnapshotイメージの名前。以下のルールを使用して、Snapshotイメージの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（"）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	このパラメータは、Snapshotイメージに関する概要情報をリストで返します。

注：

Snapshotイメージの名前は、次の2つの部分がコロン（:）で区切られています。

- Snapshotグループの識別子
- Snapshotイメージの識別子

たとえば、SnapshotグループsnapGroup1内のSnapshotイメージ12345を表示する場合は、次のコマンドを使用します。

```
show snapImage ["snapGroup1:12345"];
```

SnapshotグループsnapGroup1内の最も新しいSnapshotイメージを表示する場合は、次のコマンドを使用します。

```
show snapImage ["snapGroup1:newest"];
```

複数のSnapshotグループsnapGroup1、snapGroup2、snapGroup3内のSnapshotイメージを表示するには、次のコマンドを使用します。

```
show snapImages ["snapGroup1:12345 snapGroup2:newest snapGroup3:oldest"];
```

最小ファームウェアレベル

7.83

スナップショットボリュームの表示 - SANtricity CLI

show snapVolumeコマンドは1つ以上のスナップショット・ボリュームに関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
show (allSnapVolumes | snapVolume ["<em>snapVolumeName</em>"] |
snapVolumes ["<em>snapVolumeName1</em> ... "<em>snapVolumeNamen</em>"])
[summary]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allSnapVolumes」を参照してください	ストレージアレイ内のすべてのSnapshotボリュームに関する情報を返すためのパラメータ。
「SnapVolume」	情報を取得するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリューム名は、二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
「snapVolumes」を参照してください	情報を取得する複数のSnapshotボリュームの名前。以下のルールを使用して、Snapshotボリュームの名前を入力します。 <ul style="list-style-type: none">• すべての名前は角かっこ ([]) で囲みます。• 各名前は二重引用符 (") で囲みます。• 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	Snapshotボリュームに関する概要情報をリストで返すための設定。

注：

名前には、英数字、アンダースコア (_)、ハイフン (-)、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

このコマンドから返されるSnapshotボリューム情報の例を次に示します。

SNAPSHOT VOLUME (SNAPSHOT-IMAGE BASED) SUMMARY

SUMMARY

Total Snapshot Volumes: 1

Most Recent Snapshot Volume: Day month date hh:mm:ss yyyy

Status: 1 Optimal, 0 Non Optimal

Name	Type	Status	Capacity	Associated Base Volume
2_SV_0001	Standard	Optimal	3.000 GB	2

Snapshot Volume Timestamp	Snapshot Image Timestamp	Mode
1/23/12 6:44:31 PM IST	1/23/12 6:27:36 PM IST	Read Write

Total Repository Capacity	Available Repository Capacity
1.199 GB	0.125 MB (0%)

モニタのサイズによって、情報がどのように折り返されるかが決まり、情報がどのように表示されるかが決まります。

最小ファームウェアレベル

7.83

SNMP MIB II システムグループ変数を表示する - SANtricity CLI

「show snmpSystemVariables」コマンドは、簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）システム変数に関する情報を返します。システム変数は、Management Information Base II（MIB-II）データベースで管理されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show snmpSystemVariables
```

パラメータ

なし

注：

このコマンドから返されるSNMPシステム変数情報の例を次に示します。

```
SYSTEM VARIABLES
  Sys Name: NONE
  Sys Contact: NONE
  Sys Location: NONE
```

最小ファームウェアレベル

8.30

SSD キャッシュ統計を表示する - SANtricity CLI

「show ssdCache」コマンドは、SSDキャッシュの使用状況に関するデータを表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

構文

```
show ssdCache [<em>ssdCacheName</em>] [ssdCacheStatistics]
[controller=(a|b|both)]
[file="<em>filename</em>"]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	情報を取得するSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角カッコ ([]) で囲みます。SSDキャッシュ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「ssdCacheStatistics」と入力します	キャッシュ統計情報を取得することを示す'show ssdCache'コマンドのオプションのパラメータ
「controller」と入力します	SSDキャッシュメタデータは、それぞれが所有するボリュームについて各コントローラに格納されています。したがって、SSDキャッシュ統計はコントローラごとに管理および表示されます。有効なコントローラ識別子は'a'b'またはbothですここで'a'はスロットAのコントローラ'b'はスロットBのコントローラ'both'は両方のコントローラですコントローラの識別子は角カッコ ([]) で囲みます。コントローラを指定しない場合、デフォルト値は「both」です。
'file'	<p>SSDキャッシュ統計の保存先となるファイルパスとファイル名。ファイルには、画面に出力される以外の統計も保存されます。</p> <p>ファイル名は二重引用符 (") で囲みます。例：</p> <p>'file="C:\Program Files\CLI\logs\ssdcachestats.csv"</p> <p>任意のファイル名を使用できますが'.csv'拡張子を使用する必要があります</p>

注：

画面には次の統計が表示されます。

- * reads *-- SSDキャッシュ対応ボリュームのホスト読み取りの合計数。

読み取り数を書き込み数と比較します。効率的なSSDキャッシュ処理には、読み取り数書き込み数より多いことが必要です。書き込みに対する読み取りの比率が大きいほど、キャッシュ処理が向上します。

- * writes *- SSDキャッシュが有効なボリュームに対するホストの書き込みの合計数。
- キャッシュヒット--キャッシュヒットの数。
- キャッシュヒット率(%)--キャッシュヒット数を読み取りの合計数で割った値。

効果的なSSDキャッシュ処理には、キャッシュヒットの割合が50%より高いことが必要です。この値が小さい場合は、次のような理由が考えられます。

- 書き込みに対する読み取りの比率が小さすぎる
- 読み取りが繰り返されない
- キャッシュ容量が小さすぎる



最適なSSDキャッシュ容量を判別するには'start ssdCache [ssdCacheName] performanceModeling'コマンドを使用して'Performance Modeling Tool'を実行します

- キャッシュ割り当て率 (%) -割り当てられているSSDキャッシュストレージの量。このコントローラで使用可能なSSDキャッシュストレージの割合として表されます。割り当てられたバイト数を使用可能なバイト数で割った値です。

キャッシュ割り当ての割合は、通常は100%と表示されます。この数値が100%未満の場合は、キャッシュがウォームアップされていないか、アクセスされているすべてのデータよりもSSDキャッシュ容量が大きいことを意味します。後者の場合、SSDキャッシュ容量を小さくしても同レベルのパフォーマンスが得られる可能性があります。この値は、キャッシュされたデータがSSDキャッシュに配置されたことを示しているわけではなく、SSDキャッシュにデータを配置可能となる前の準備手順にすぎません。

- キャッシュ使用率 (%) -有効なボリュームのデータを含むSSDキャッシュストレージの量。割り当てられているSSDキャッシュストレージの割合として表されます。この値はSSDキャッシュの利用率または密度を表し、ユーザデータのバイト数を割り当てられたバイト数で割った値です。

キャッシュ使用率の割合は、通常は100%より小さく、多くの場合はさらに小さくなります。この数値は、SSDキャッシュ容量のうち、キャッシュデータが書き込まれている割合を示します。この数値が100%より小さい理由は、SSDキャッシュの各割り当て単位であるSSDキャッシュブロックが、サブブロックと呼ばれる小さい単位に分割され、それぞれ独立して確保されるからです。この値が大きいほど一般には有効ですが、小さい数値でもパフォーマンスが大幅に向上する可能性があります。

ファイルには、次の統計も保存されます。

- * Read Blocks * : ホスト読み取りのブロック数
- 書き込みブロック--ホスト書き込みのブロック数
- フルヒットブロック--ブロックキャッシュヒットの数。

この値は、SSDキャッシュから完全に読み込まれたブロックの数を示します。SSDキャッシュがパフォーマンスの向上に効果があるのは、フルキャッシュヒットである処理に対してのみです。

- 部分ヒット-すべてのブロックではなく、少なくとも1つのブロックがSSDキャッシュ内にあったホスト読み取りの数。これはSSDキャッシュ*ミス*で、ベースボリュームから読み取りが行われた場合に発生します。

部分キャッシュヒットと部分キャッシュヒットブロックは、SSDキャッシュ内にデータの一部しかない処理の結果として発生します。この場合、キャッシュされているHDDボリュームからデータを取得する必要があります。このタイプのヒットの場合、SSDキャッシュから得られるパフォーマンス上のメリットはありません。部分キャッシュヒットブロック数が完全キャッシュヒットブロック数より多い場合は、別のI/O特性タイプ（ファイルシステム、データベース、またはWebサーバ）を使用するとパフォーマンスが向上する可能性があります。

- 部分ヒットーブロック--部分ヒットのブロック数。

部分キャッシュヒットと部分キャッシュヒットブロックは、SSDキャッシュ内にデータの一部しかない処

理の結果として発生します。この場合、キャッシュされているHDDボリュームからデータを取得する必要があります。このタイプのヒットの場合、SSDキャッシュから得られるパフォーマンス上のメリットはありません。部分キャッシュヒットブロック数が完全キャッシュヒットブロック数より多い場合は、別のI/O特性タイプ（ファイルシステム、データベース、またはWebサーバ）を使用するとパフォーマンスが向上する可能性があります。

- ***Misses ***-- SSDキャッシュ内にブロックがなかったホスト読み取りの数。これはSSDキャッシュミスで、ベースボリュームから読み取りが行われた場合に発生します。
- **Misses** --ブロック--ミスしたブロックの数。
- 取り込み処理（ホスト読み取り）-ベースボリュームからSSDキャッシュにデータがコピーされたホスト読み取りの数。
- 取り込み処理（ホスト読み取り）--ブロック--取り込み処理（ホスト読み取り）のブロック数。
- 取り込み処理（ホスト書き込み）-ベースボリュームからSSDキャッシュにデータがコピーされたホスト書き込みの数。

書き込みI/O処理によってキャッシュが一杯にならないキャッシュ構成設定では、取り込み処理（ホスト書き込み）の数がゼロになることがあります。

- 取り込み処理（ホスト書き込み）--ブロック--取り込み処理（ホスト書き込み）のブロック数。
- 無効化処理-データが無効化された/ SSDキャッシュから削除された回数。キャッシュの無効化処理は、各ホスト書き込み要求、Forced Unit Access（FUA）によるホスト読み取り要求、確認要求、およびその他一部の状況で実行されます。
- リサイクル処理-別のベースボリュームやLBA範囲、またはその両方にSSDキャッシュブロックが再利用された回数。

効果的なキャッシュでは、読み取り処理と書き込み処理の合計数よりも再利用回数が少ないことが重要です。リサイクル処理の回数が読み取りと書き込みの合計数に近い場合、SSDキャッシュはスラッシングしています。キャッシュ容量を増やす必要があります。または、ワークロードがSSDキャッシュの使用に適していません。

- 使用可能バイト数- SSDキャッシュ内でこのコントローラが使用できるバイト数。

使用可能なバイト数、割り当て済みバイト数、およびユーザデータのバイト数を使用して、キャッシュ割り当て率とキャッシュ利用率が計算されます。

- 割り当てバイト数- SSDキャッシュから割り当てられている、このコントローラのバイト数。SSDキャッシュから割り当てられたバイトは、空の場合と、ベースボリュームのデータが含まれている場合があります。

使用可能なバイト数、割り当て済みバイト数、およびユーザデータのバイト数を使用して、キャッシュ割り当て率とキャッシュ利用率が計算されます。

- ユーザーデータバイト数-- SSDキャッシュ内でベースボリュームのデータを含む割り当てバイト数。

使用可能なバイト数、割り当て済みバイト数、およびユーザデータのバイト数を使用して、キャッシュ割り当て率とキャッシュ利用率が計算されます。

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

SSD キャッシュを表示 - SANtricity CLI

「show ssdCache」 コマンドは、SSDキャッシュに関する情報を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

構文

```
show ssdCache [<em>ssdCacheName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ssdCache」	情報を取得するSSDキャッシュの名前。SSDキャッシュ名は角かっこ ([]) で囲みます。SSDキャッシュ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、SSDキャッシュ名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

注：

このコマンドから返されるSSDキャッシュ情報の例を次に示します。

```
SSD Cache name: my_cache
```

```
Status:                               Optimal
Type:                                   Read Only
I/O characteristic type:             File System
Maximum capacity allowed:             1,862.645 GB
Current capacity:                     557.792 GB
Additional capacity allowed            1,304.852 GB
Drive capacities:                     All 278.896 GB
Quality of Service (QoS) Attributes
  Security capable:                   No
  Secure:                             No
  Data Assurance (DA) capable:        No
Associated drives:

Tray      Slot
0          4
0          11
Volumes using SSD cache:              volume_test
```

最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

ストレージアレイの自動構成を表示する - SANtricity CLI

「autoConfigure storageArray autoConfiguration」コマンドを実行すると、ストレージアレイが作成するデフォルトの自動設定が表示されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

ストレージアレイが特定のプロパティをサポートするかどうかを確認するには、このコマンドを実行するときにプロパティのパラメータを入力します。設定情報を取得する場合、このコマンドのパラメータを入力する必要はありません。

構文

```
show storageArray autoConfiguration
[driveType=(SAS | NVMe4K)
driveMediaType=(HDD | SSD | unknown | allMedia)
raidLevel=(0 | 1 | 3 | 5 | 6)
volumeGroupWidth=<em>numberOfDrives</em>
volumeGroupCount=<em>numberOfVolumeGroups</em>
volumesPerGroupCount=<em>numberOfVolumesPerGroup</em>
hotSpareCount=<em>numberOfHotspares</em>
segmentSize=<em>segmentSizeValue</em>
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)
securityType=(none | capable | enabled)
secureDrives=(fips | fde)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブタイプ」	<p>ストレージアレイに使用するドライブのタイプ。</p> <p>ストレージ・アレイ内にドライブのタイプが1つだけの場合は'drivetype'パラメータは必要ありませんストレージアレイ内に複数のドライブタイプがある場合は、このパラメータを使用する必要があります。</p> <p>有効なドライブタイプは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• 「SAS」• 「NVMe4K」

パラメータ	説明
driveMediaType	<p>ミラーリポジトリボリュームグループに使用するドライブメディアのタイプ。有効なドライブメディアは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [HDD]--ドライブトレイにハードドライブがある場合は'このオプションを使用します • SSD'--ドライブトレイにソリッドステートドライブがある場合は'このオプションを使用します • 不明—ドライブトレイ内のドライブメディアのタイプが不明な場合に使用します • [allMedia]--ドライブトレイにあるすべてのタイプのドライブメディアを使用する場合に'このオプションを使用します <p>このパラメータは'repositoryDriveCount'パラメータを使用する場合に使用します</p> <p>ストレージアレイ内に複数のタイプのドライブメディアがある場合は、このパラメータを使用する必要があります。</p>
raidLevel	<p>ストレージアレイ内にドライブが含まれているボリュームグループのRAIDレベル。有効なRAIDレベルは'0'1' 3'5'または'6'です</p>
'volumeGroupWidth'	<p>ストレージアレイ内のボリュームグループ内のドライブ数。ドライブの容量によって異なります。整数値を使用します。</p>
「volumeGroupCount」のように指定します	<p>ストレージアレイ内のボリュームグループの数。整数値を使用します。</p>
「volumesPerGroupCount」	<p>ボリュームグループあたりの容量が同じボリュームの数。整数値を使用します。</p>
「hotSpareCount」を入力します	<p>ストレージアレイ内に必要なホットスペアの数。整数値を使用します。</p>
「segmentSize」のように表示されます	<p>コントローラがボリューム内の1つのドライブに書き込めるデータ量 (KB) を指定します。有効な値は'8'16'32'64'128'です 「256」または「512」。</p>

パラメータ	説明
「cacheReadPrefetch」というメッセージが表示されます	キャッシュ読み取りプリフェッチをオンまたはオフにする設定。キャッシュ読み取りプリフェッチをオフにするにはこのパラメータをFALSEに設定します キャッシュ読み取りプリフェッチをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定します
「securityType」	<p>ボリュームグループおよび関連するすべてのボリュームの作成時にセキュリティレベルを指定する設定。有効な設定は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 'none' --ボリュームグループとボリュームは安全ではありません。 • capable --ボリュームグループとボリュームにはセキュリティを設定する機能がありますがセキュリティは有効になっていません • 有効-ボリューム・グループとボリュームでセキュリティが有効になっています
「secureDrives」を参照してください	<p>ボリュームグループで使用するセキュアドライブのタイプ。有効な設定は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • fips — FIPS準拠のドライブのみを使用します • fde — FDE準拠のドライブを使用します <div>  <p>このパラメータは'securityType'パラメータとともに使用しますsecurityTypeパラメータに「none」を指定すると、「secureDrives」パラメータの値は無視されます。これは、セキュアでないボリュームグループにセキュアドライブタイプを指定する必要がないためです。</p> </div>

注：

プロパティを指定しない場合は、ドライブタイプごとにRAIDレベル5の候補が返されます。RAIDレベル5の候補がない場合は、RAIDレベル6、RAIDレベル3、RAIDレベル1、またはRAIDレベル0の候補を返します。自動設定のプロパティを指定すると、ファームウェアがプロパティをサポートできるかどうかコントローラによって検証されます。

ドライブとボリュームグループ

ボリュームグループは、ストレージアレイのコントローラによって論理的にグループ化された一連のドライブです。ボリュームグループ内のドライブ数は、RAIDレベルとコントローラファームウェアによって制限されます。ボリュームグループを作成する際は、次のガイドラインに従ってください。

- ファームウェアバージョン7.10以降では、あとから使用するために容量をリザーブできるように、空のボ

リユームグループを作成できます。

- SASとFibre Channelなどのドライブタイプを1つのボリユームグループ内で混在させることはできません。
- ボリユームグループの最大ドライブ数は、次の条件によって異なります。
 - コントローラのタイプ
 - RAIDレベル
- RAIDレベルには、0、1、10、3、5が含まれます。 および6。
 - CDE3992またはCDE3994ストレージアレイでは、RAIDレベル0のボリユームグループとRAIDレベル10のボリユームグループには最大112本のドライブを配置できます。
 - CE6998ストレージアレイでは、RAIDレベル0のボリユームグループとRAIDレベル10のボリユームグループには最大224本のドライブを配置できます。
 - RAIDレベル3、RAIDレベル5、またはRAIDレベル6のボリユームグループに配置できるドライブは最大30本です。
 - RAIDレベル6のボリユームグループには、少なくとも5本のドライブが必要です。
 - RAIDレベル1のボリユームグループに4本以上のドライブがある場合、ストレージ管理ソフトウェアはボリユームグループをRAIDレベル10に自動的に変換します。RAIDレベル1 + RAIDレベル0です。
- ボリユームグループに容量の異なるドライブが含まれている場合は、容量の最も小さいドライブに基づいてボリユームグループ全体の容量が計算されます。
- トレイ/ドロワー損失の保護を有効にする場合のその他の条件については、次の表を参照してください。

レベル	トレイ損失の保護の基準	必要なトレイの最小数
ディスク・プール	ディスクプールに同じトレイのドライブが3本以上含まれない	6.
「RAID 6」	ボリユームグループに同じトレイのドライブが3本以上含まれない	3.
RAID 3またはRAID 5	ボリユームグループ内のドライブがすべて別々のトレイに配置されている	3.
RAID 1	RAID 1ペアのドライブがそれぞれ別のトレイに配置されている	2.
RAID 0	トレイ損失の保護は実現できない。	該当なし

レベル	ドロワー損失の保護の基準	必要なドロワーの最小数
ディスク・プール	プールに5つのドロワーすべてのドライブが含まれていて、各ドロワーに同じ数のドライブが配置されている。60ドライブのトレイでは、ディスクプールの構成が15、20、25、30、35の場合にドロワー損失の保護を実現できます。40、45、50、55、または60ドライブ。	5.
「RAID 6」	ボリュームグループに同じドロワーのドライブが3本以上含まれない。	3.
RAID 3またはRAID 5	ボリュームグループ内のドライブがすべて別々のドロワーに配置されている。	3.
RAID 1	ミラーペアのドライブがそれぞれ別のドロワーに配置されている。	2.
RAID 0	ドロワー損失の保護は実現できない。	該当なし

ホットスペア

ボリュームグループでは、データを保護するための重要な戦略は、ストレージアレイ内の使用可能なドライブをホットスペアドライブとして割り当てることです。ホットスペアは、データが格納されていないドライブで、RAID 1、RAID 3、RAID 5、またはRAID 6のボリュームグループでドライブに障害が発生した場合に、ストレージアレイでスタンバイとして機能します。ホットスペアを使用すると、ストレージアレイの冗長性が向上します。

一般に、ホットスペアドライブには、保護対象のドライブの使用済み容量以上の容量が必要です。ホットスペアドライブのメディアタイプ、インターフェイスタイプ、および容量は、保護対象のドライブと同じである必要があります。

ストレージアレイのドライブで障害が発生した場合、通常は障害が発生したドライブの代わりにホットスペアが自動的に使用されます。ドライブ障害の発生時にホットスペアが使用可能であれば、冗長性データパリティを使用してホットスペアにデータが再構築されます。データ退避のサポートでは、障害が発生したドライブとしてマークされる前に、データをホットスペアにコピーすることもできます。

障害が発生したドライブを物理的に交換したら、次のいずれかのオプションを使用してデータをリストアできます。

障害が発生したドライブを交換すると、ホットスペアのデータが交換用ドライブにコピーされます。この操作をコピーバックと呼びます。

ホットスペアドライブをボリュームグループの永続的メンバーとして指定する場合は、コピーバック処理は不要です。

ボリュームグループのトレイ損失の保護およびドロワー損失の保護が可能かどうかは、ボリュームグループを構成するドライブの場所によって異なります。ドライブの障害とホットスペアドライブの場所によっては、トレイ損失の保護とドロワー損失の保護が失われる場合があります。トレイ損失の保護とドロワー損失の保護が影響を受けないようにするには、障害が発生したドライブを交換してコピーバックプロセスを開始する必要があります。

ストレージレイでは、Data Assurance (DA) が有効なボリュームのホットスペア対象範囲としてDA対応ドライブが自動的に選択されます。

DAが有効なボリュームのホットスペア対象範囲のストレージレイにDA対応ドライブがあることを確認してください。DA対応ドライブの詳細については、Data Assurance機能を参照してください。

セキュリティ対応 (FIPSおよびFDE) ドライブは、セキュリティ対応とセキュリティ非対応の両方のドライブのホットスペアとして使用できます。セキュリティ非対応ドライブは、他のセキュリティ非対応ドライブに対して、また、ボリュームグループでセキュリティが有効になっていない場合はセキュリティ対応ドライブに対しても、対応可能です。FIPSボリュームグループは、FIPSドライブのみをホットスペアとして使用できます。ただし、FIPSホットスペアは、セキュリティ非対応、セキュリティ対応、およびセキュリティ有効のボリュームグループに対して使用できます。

ホットスペアがない場合でも、ストレージレイの動作中に、障害が発生したドライブを交換できます。RAID 1、RAID 3、RAID 5、またはRAID 6のボリュームグループの一部であるドライブは、冗長性データパリティを使用して、交換用ドライブにデータを自動的に再構築します。この操作を再構築と呼びます。

セグメントサイズ

コントローラがボリューム内の1つのドライブに書き込めるデータブロックの数は、セグメントのサイズによって決まります。各データブロックには512バイトのデータが格納されます。データブロックはストレージの最小単位です。セグメントのサイズによって、格納されるデータブロックの数が決まります。たとえば、8KBのセグメントには16個のデータブロックが含まれます。64KBのセグメントには128個のデータブロックが含まれます。

セグメントサイズの値を入力すると、その値は、実行時にコントローラで指定される、サポートされている値と照合されます。入力した値が無効な場合、コントローラは有効な値のリストを返します。1つの要求に対して1つのドライブを使用することで、他のドライブでは他の要求に同時に対応できます。ボリュームが属している環境で、1人のユーザが大量のデータ (マルチメディアなど) を転送している場合は、1つのデータ転送要求を1つのデータストライプで処理すると、パフォーマンスが最大化されます。(データストライプはセグメントサイズであり、これに、データ転送に使用されるボリュームグループ内のドライブ数が掛けられます)。この場合、同じ要求に対して複数のドライブが使用されますが、各ドライブへのアクセスは1回だけとなります。

マルチユーザデータベースまたはファイルシステムのストレージ環境で最適なパフォーマンスを実現するには、データ転送要求を満たすために必要なドライブ数が最小限になるように、セグメントサイズを設定します。

キャッシュ読み取りプリフェッチ

キャッシュ読み取りプリフェッチを使用すると、コントローラは、ホストによって要求されたデータブロックをドライブから読み取ってキャッシュにコピーすると同時に、追加のデータブロックをキャッシュにコピーできます。これにより、以降のデータ要求をキャッシュから処理できる可能性が高くなります。キャッシュ読み取りプリフェッチは、シーケンシャルデータ転送を使用するマルチメディアアプリケーションにとって重要です。「cacheReadPrefetch」パラメータの有効な値は「TRUE」または「FALSE」です。デフォルトは「true」です。

セキュリティタイプ

ストレージ・アレイのセキュリティ設定を指定するには'securityType'パラメータを使用します

'securityType'パラメータを'enabled'に設定する前に'ストレージ・アレイのセキュリティ・キーを作成する必要があります'ストレージ・アレイのセキュリティ・キーを作成するには'create storageArray securityKey'コマンドを使用します次のコマンドがセキュリティキーに関連しています。

- 「create storageArray securityKey」のように指定します
- 「export storageArray securityKey」のように指定します
- 「import storageArray securityKey」のように入力します
- 「set storageArray securityKey」のように指定します
- [Enable volumeGroup [volumeGroupName] security]を有効にします
- 「enable diskPool [diskPoolName]のセキュリティ」を参照してください

セキュアドライブ

セキュリティ対応ドライブには、Full Disk Encryption (FDE) ドライブと連邦情報処理標準 (FIPS) ドライブがあります。secureDrivesパラメータを使用して、使用するセキュアドライブのタイプを指定します。使用できる値は'FIPS'とFDEです

コマンドの例

```
show storageArray autoConfiguration securityType=capable
secureDrives=fips;
```

最小ファームウェアレベル

7.10で、RAIDレベル6機能が追加され、ホットスペアの制限がなくなりました。

7.50で、「securityType」パラメータが追加されました。

7.75で'dataAssurance'パラメータが追加されました

8.25で'secureDrives'パラメータが追加されました

AutoSupport 構成の表示 - SANtricity CLI

show storageArray autoSupport AutoSupport コマンドを使用すると、ストレージアレイのAutoSupport バンドル収集設定が表示されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、およびEF300のストレージアレイが対象です。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドからのコマンド出力は、次の設定情報を表示します。

- AutoSupport 機能、AutoSupport OnDemand機能、およびAutoSupport Remote Diagnostics機能の管理ドメインのアクティブ化ステータス
- 設定された配信方法に応じた配信パラメータ：
 - 配信方法がEメール (SMTP) : 送信先のEメールアドレス、メールリレーサーバ、および送信者のEメールアドレスが表示されます
 - 配信方法がHTTPまたはHTTPS :
 - 直接接続-宛先IPアドレスが表示されます
 - プロキシサーバ接続-ホストアドレス、ポート番号、および認証の詳細が表示されます
 - 自動プロキシ設定スクリプト (PAC) 接続-スクリプトの場所が表示されます
- AutoSupport の日単位および週単位の優先される時間範囲
- ASUPの機能、シャーシのシリアル番号、および設定されている日次/週次スケジュールに関する情報

構文

```
show storageArray autoSupport
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "show storageArray autoSupport;"
```

```
The AutoSupport feature is enabled on this storage array.
```

```
The AutoSupport OnDemand feature is enabled on this storage array.
```

```
The AutoSupport Remote Diagnostics feature is enabled on this storage array.
```

```
Delivery Method: Email (SMTP)
```

```
Destination email address: autosupport@netapp.com
```

```
Mail relay server: mail.example.com
```

```
Sender email address: sender@example.com
```

```
Server encryption type: None
```



```

Server port: 25
Server username:
Server password: ***
Dispatch size limit: 5242880

Delivery Method: Email (SMTP)
Destination email address: destination1@example.com,
destination2@example.com
Mail relay server: mail.example.com
Sender email address: sender@example.com
Server encryption type: None
Server port: 25
Server username:
Server password: ***
Dispatch size limit: 5242880

Delivery Method: HTTPS
Destination IP address: https://support.netapp.com/put/AsupPut/
Connection: Direct
Dispatch size limit: 52428800

Delivery Method: HTTPS
Destination IP address: https://support.netapp.com/put/AsupPut/
Connection: Direct
Dispatch size limit: Unlimited

The AutoSupport daily schedule preferred time range is from 12:00 AM to
01:00 AM.
The AutoSupport weekly schedule preferred time range is from 10:00 PM
to 11:00 PM on Thursday, Saturday.

AutoSupport Capable   AutoSupport OnDemand Capable   Chassis Serial
Number   Daily Schedule   Weekly Schedule
Yes (enabled)   Yes   SX94500434
12:55 AM   10:08 PM on Thursdays

SMcli completed successfully.

```

最小ファームウェアレベル

8.40

ストレージアレイキャッシュミラーデータアシュアランスチェックの有効化を表示 - **SANtricity CLI**

「show storageArray cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable」 コマンドは、キャッシュミラーData Assuranceチェック機能の有効設定ステータスを返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show storageArray cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.41で、コマンドパラメータが新しくなりました。

ストレージアレイコントローラのヘルスイメージを表示する - **SANtricity CLI**

コントローラヘルスイメージをサポートするストレージアレイでコントローラヘルスイメージが使用可能な場合は、「show storageArray controllerHealthImage」コマンドを実行すると、コントローラキャッシュ上のコントローラヘルスイメージの詳細が表示されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)



ファームウェア・バージョン8.20で'coredump'パラメータは'controllerHealthImage'パラメータに置き換えられました

ストレージアレイがコントローラヘルスイメージ機能をサポートしていない場合、このコマンドはエラーを返します。

構文

```
show storageArray controllerHealthImage
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

7.83

8.20で'coredump'パラメータが'controllerHealthImage'パラメータに置き換えられました

ストレージアレイの **DBM** データベースを表示する - **SANtricity CLI**

show storageArray dbmDatabaseコマンドは'ストレージ・アレイのオンボード・バックアップの場所のメタデータを取得して表示しますバックアップの場所が複数ある場合は、場所ごとにメタデータが表示されます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show storageArray dbmDatabase
```

パラメータ

なし

注：

このコマンドから返される構成データベース情報の形式は次のようになります。

「構成データベースのMetadataLast Host Backup：<日付スタンプ>」

CTL	場所	リビジョン	ID	生成番号	ステータス	アクセスモード
A	キャッシュ	x.y	999999	999999	R/W	最適
B	キャッシュ	x.y	999999	999999	R/W	最適
該当なし	ディスク	x.y	999999	999999	R/W	最適

最小ファームウェアレベル

7.83

ストレージアレイのディレクトリサービスの概要を表示する - SANtricity CLI

「show storageArray DirectoryServices summary」コマンドは、ディレクトリサービスの設定の概要を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show storageArray directoryServices summary
```

パラメータ

なし

例

```
SMcli -n Array1 -c "show storageArray directoryServices summary;"

Directory Servers:
  DomainId1
    Domain name(s): company.com, name2, name3
    Server URL: ldaps://hqldap.test.eng.company.com:636
    Bind account:
      CN=prnldap,OU=securedsvccaccounts,OU=systemaccounts,DC=hq,DC=company,DC=com
    Bind password: *****
    Login base: %s@company.com
    Search base DN: OU=_Users,DC=hq,DC=company,DC=com
    Username attribute: sAMAccountName
    Group attribute(s): memberOf, attributeX
    Default role: Monitor
    Roles Mapping
      Group DN
      CN=ng-hsg-bc-
madridsecurity,OU=Managed,OU=CompanyGroups,DC=hq,DC=company,DC=com
      Roles
      storage.monitor, security.admin, storage.admin
    Group DN
    OU=Managed,OU=CompanyGroups,DC=hq,DC=company,DC=com
      Roles
      storage.monitor
  DomainId2
    Domain name(s): aj.MadridSecurity
    Server URL: ldap://10.113.90.166:389
    Search base DN: CN=Users,DC=aj,DC=madridsecurity
    Username attribute: sAMAccountName
    Group attribute(s): memberOf
    Default role: None
    Roles Mapping
      Group DN
      CN=Administrators,CN=Builtin,DC=aj,DC=MadridSecurity
      Roles
      storage.monitor, storage.admin

SMcli completed successfully.
```

ストレージアレイホストの接続レポートを表示する - SANtricity CLI

「show storageArray hostConnectivityReporting」コマンドは、ホスト接続レポート機能の有効化ステータスを返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show storageArray hostConnectivityReporting
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.42新しいコマンドパラメータ。

ストレージアレイホストトポロジの表示 - SANtricity CLI

show storageArray hostTopology'コマンドは'ストレージ・パーティション・トポロジー'ホスト・タイプ・ラベル'ホスト・ストレージ・アレイのホスト・タイプ・インデックスを返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show storageArray hostTopology
```

パラメータ

なし

注：

このコマンドから返されるホストトポロジ情報の例を次に示します。

```
TOPOLOGY DEFINITIONS
DEFAULT GROUP
Default type: Windows 2000/Server 2003 Non-Clustered
Host Group: scott
Host: scott1
Host Port: 28:37:48:55:55:55:55:55
Alias: scott11
Type: Windows 2000/Server 2003 Clustered
Host: scott2
Host Port: 98:77:66:55:44:33:21:23
Alias: scott21
Type: Windows 2000/Server 2003 Clustered
Host: Bill
Host Port: 12:34:55:67:89:88:88:88
Alias: Bill1
Type: Windows 2000/Server 2003 Non-Clustered
NVS RAM HOST TYPE INDEX DEFINITIONS
```

HOST TYPE	ALUA/AVT STATUS	ASSOCIATED INDEXES
AIX MPIO	Disabled	9
AVT_4M	Enabled	5
Factory Default	Disabled	0
HP-UX	Enabled	15
Linux (ATTO)	Enabled	24
Linux (DM-MP)	Disabled	6
Linux (Pathmanager)	Enabled	25
Mac OS	Enabled	22
ONTAP	Disabled	4
SVC	Enabled	18
Solaris (v11 or Later)	Enabled	17
Solaris (version 10 or earlier)	Disabled	2
VMWare	Enabled	10 (Default)
Windows	Enabled	1

最小ファームウェアレベル

5.20

ストレージアレイネゴシエーションのデフォルトを表示する - SANtricity CLI

show storageArray iscsiNegotiationDefaultsコマンドは、イニシエータとターゲットのネゴシエーションによって決まる接続レベルの設定に関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show storageArray iscsiNegotiationDefaults
```

パラメータ

なし

注：

返される情報には、コントローラトレイのデフォルト設定（つまり、ネゴシエーションの開始点である設定）および現在のアクティブな設定が含まれます。

最小ファームウェアレベル

7.10

ストレージアレイのLUNマッピングを表示する - SANtricity CLI

show storageArray lunMappingsコマンドは、ストレージアレイの論理ユニット番号（LUN）マッピングまたはネームスペースID（NSID）マッピングに関する情報を、ストレージアレイプロファイルから返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

デフォルトグループのLUNマッピングまたはNSIDマッピングは常に表示されます。パラメータを指定せずにこのコマンドを実行すると、すべてのLUNマッピングまたはNSIDマッピングが返されます。

構文

```
show storageArray lunMappings (host ["<em>hostName</em>"] |
hostgroup ["<em>hostGroupName</em>"])
```

パラメータ

パラメータ	説明
ホスト	LUNマッピングまたはNSIDマッピングを表示する特定のホストの名前。ホスト名は、二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
「hostGroup」と入力します	LUNマッピングまたはNSIDマッピングを表示する特定のホストグループの名前。ホストグループ名は、二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。

注：

このコマンドから返されるホストトポロジ情報の例を次に示します。

```
MAPPINGS (Storage Partitioning - Enabled (0 of 16 used))
VOLUME NAME  LUN  CONTROLLER  ACCESSIBLE BY  VOLUME STATUS
Access Volume 7  A,B      Default Group  Optimal
21            21    B           Default Group  Optimal
22            22    B           Default Group  Optimal
```

ストレージアレイのODX設定を表示する - SANtricity CLI

show storageArray odxsetting コマンドは、ストレージアレイのオフロードデータ転送（ODX）およびVMware vStorage API Array Architecture（VAAI）の現在の設定を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト（Context）

このコマンドの設定は、次のいずれかになります。

- true — ODXとVAAIがオンになっています。
- false — ODXとVAAIはオフになっています。
- Inconsistent - コントローラ間で設定が異なります。
- unknown — ODXまたはVAAIの設定を特定できません。

構文

```
show storageArray odxsetting
```

パラメータ

なし

注：

このコマンドから返されるODXとVAAIの情報の例を次に示します。

```
Windows ODX Setting Status
odxEnabled   True | False | Inconsistent | Unknown
vaaiEnabled  True | False | Inconsistent | Unknown
```

最小ファームウェアレベル

8.20で

ストレージアレイの電源情報を表示する - SANtricity CLI

show storageArray powerInfo'コマンドは'ストレージ・アレイ全体およびストレージ・アレイ内の各トレイで消費される電力量に関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show storageArray powerInfo
```

パラメータ

なし

注：

このコマンドから返される電力消費情報の例を次に示します。

```
total power drawn: 310 watts
number of trays: 1
tray power input details:
  tray id  power supply serial number  input power
  0        0                               160 watts
  0        1                               150 watts
```

最小ファームウェアレベル

8.10で

証明書失効チェック設定を表示する - SANtricity CLI

show storageArray revocationCheckSettingsコマンドを使用すると、ストレージアレイの証明書失効設定を表示できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

パラメータ

なし

構文

```
show storageArray revocationCheckSettings
```

例

```
SMcli -n Array1 c "show storageArray revocationCheckSettings;"
Revocation Checking: Disabled
OCSP Responder Server URL: https://ocspResponderURL.com
SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.42

ストレージアレイのSyslog構成を表示する - SANtricity CLI

「show storageArray syslog」コマンドを使用すると、監査ログの格納に使用されるsyslogサーバの設定を表示できます。設定情報には、サーバIDとそのアドレス、プロトコル、およびポート番号が含まれます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show storageArray syslog (allServers | id="<id>")
```

パラメータ

パラメータ	説明
allServers	すべてのsyslog設定を表示します。
ID	指定したIDに一致するsyslog設定を表示します。

例

```
SMcli -n Array1 -c "show storageArray syslog allServers;"
SMcli -n Array1 -c "show storageArray syslog id=\"331998fe-3154-4489-b773-b0bb60c6b48e\";"

ID:                331998fe-3154-4489-b773-b0bb60c6b48e
Server Address:    192.168.2.1.com
Port:              514
Protocol:          udp
Components
1. Component Name: auditLog

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.42

インストールされた信頼された **CA** 証明書の概要を表示する - **SANtricity CLI**

show storageArray trustedCertificate summaryコマンドは、アレイから信頼されてインストールされたCA証明書の概要を表示します。このコマンドを使用すると、「delete storageArray trustedCertificate」コマンドを実行する前に、削除する証明書のエイリアス名を確認できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

構文

```
show storageArray trustedCertificate [all | allUserInstalled|  
aliases=("alias1" ... "aliasN")] summary
```

パラメータ

パラメータ	説明
「すべて」	プリインストールされている証明書とユーザがインストールした証明書を含むすべての証明書を取得するように指定できます。
「allUserInstalled」	ユーザがインストールした証明書をすべて取得するように指定できます。これがデフォルトのオプションです。
「別名」	取得するプリインストールされている証明書またはユーザがインストールした証明書をエイリアスで指定できます。すべてのエイリアスをかっこで囲みます。複数のエイリアスを入力する場合は、エイリアスをスペースで区切ります。

例

出力例は、以下に示すものと異なる場合があります。

```
SMcli -n Array1 -c "show storageArray trustedCertificate allUserInstalled
summary;"
=====
Trusted Certificates
=====
Alias:          19527b38-8d26-44e5-8c7f-5bf2ca9db7cf
Type:           Pre-installed | User installed
Subject DN:     CN=Corp Issuing CA 1
Issuer DN:      CN=Corp Root CA
Start:          date
Expire:         date
-----
Alias:          myAliasName
Type:           Pre-installed | User installed
Subject DN:     CN=Corp Issuing CA 1
Issuer DN:      CN=Corp Root CA
Start:          date
Expire:         date

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

未構成のイニシエーターを表示する - SANtricity CLI

show storageArray unconfiguredInitiators コマンドは、ストレージアレイによって検出されたイニシエーターのうち、まだストレージアレイポートに設定されていないイニシエーターのリストを返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

このコマンドは、置き換わるものです **"show storageArray unconfiguredIscsiInitiators"** コマンドを実行します

構文

```
show storageArray unconfiguredInitiators
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

8.50

ストレージアレイの未構成の iSCSI イニシエーターを表示する - SANtricity CLI

show storageArray unconfiguredIscliInitiators コマンドは、ストレージ・アレイによって検出されたイニシエーターのうち、まだストレージ・アレイ・トポロジに設定されていないイニシエーターのリストを返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

このコマンドは廃止されました。置き換えられるコマンドは、["show storageArray unconfiguredInitiatorsの例を示します"](#)。

構文

```
show storageArray unconfiguredIscliInitiators
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

7.10

8.50で、このコマンドは廃止されました。

ストレージレイの読み取り不可能なセクターを表示する - SANtricity CLI

show storageArray unreadableSectors' コマンドは、ストレージレイ内の読み取り不可能なすべてのセクターのアドレスのテーブルを返します。

サポートされているレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

返されるテーブルには、次の情報を示す列見出しが表示されます。

- ボリュームのユーザラベル
- Logical Unit Number (LUN ; 論理ユニット番号)
- アクセス可能かどうか (ホストまたはホストグループから)
- 日付/時刻
- ボリュームから見た論理ブロックアドレス (16進形式- 0xxxxxxxxx)
- ドライブの場所 (トレイト、スロットs)
- ドライブから見た論理ブロックアドレス (16進形式- 0xxxxxxxxx)
- 障害のタイプ

データは、まずボリュームユーザラベルでソートされ、次に論理ブロックアドレス (LBA) でソートされます。テーブル内の各エントリは、1つのセクターに対応します。

構文

```
show storageArray unreadableSectors
```

パラメータ

なし

最小ファームウェアレベル

6.10

ストレージアレイのユーザーセッションを表示する - SANtricity CLI

「show storageArray userSession」コマンドを使用すると、System Managerのセッションタイムアウト時間を表示できます。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

パラメータ

なし

構文

```
show storageArray userSession
```

最小ファームウェアレベル

8.41

ストレージアレイの表示 - SANtricity CLI

show storageArrayコマンドは、ストレージ・アレイに関する構成情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

パラメータを指定すると、ストレージアレイのコンポーネントと機能の値がリスト形式で返されます。1つまたは複数のパラメータを指定してコマンドを入力できます。パラメータを指定せずにコマンドを入力すると、


ストレージ・アレイ・プロファイル全体が表示されます（「* profile *」パラメータを入力した場合と同じ情報）。

構文


```
show storageArray
[autoSupport| autoSupportConfig | profile |
batteryAge | connections | defaultHostType | healthStatus |
hostTypeTable | hotSpareCoverage | features | time |
volumeDistribution | longRunningOperations | summary |
preferredVolumeOwners |
iscsiNegotiationDefaults | unconfiguredIscsiInitiators |
autoLoadBalancingEnable |
cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable | hostConnectivityReporting]
```

パラメータ

パラメータ	説明
autoLoadBalancingEnable	<div>自動ロードバランシング機能の有効設定ステータスを返すためのパラメータ。</div> <div><div></div><div>自動ロードバランシング機能を有効にすると、ホスト接続レポート機能も有効になります。</div></div>
「AutoSupport」	<div><div></div><div>このパラメータは、「https」クライアントタイプで実行されているE2800またはE5700ストレージアレイに対してのみ有効です。E2800またはE5700ストレージアレイがクライアントタイプで実行されている場合は、「autoSupportConfig」パラメータを使用します。</div></div>

パラメータ	説明
'autoSupportConfig'	<p>サポートデータの自動収集処理の現在の状態を返すためのパラメータ。次の情報が返されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 処理が有効か無効か • サポートデータファイルが格納されているフォルダの場所 <div>  <p>このパラメータは、「symbol」クライアントタイプで実行されているE2800またはE5700ストレージアレイに対してのみ有効です。E2800またはE5700ストレージ・アレイがHTTPSクライアント・タイプで稼働している場合はAutoSupport *パラメータを使用します</p> </div>
「batteryAge」	ステータス、バッテリーの寿命（日数）、およびバッテリーの交換が必要になるまでの日数を表示するためのパラメータ。両方のバッテリーの情報が表示されます。
cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable`	キャッシュミラーData Assurance機能の有効設定ステータスを返すためのパラメータ。
「接続」	ドライブチャネルポートの場所とドライブチャネルの接続先をリスト形式で表示するためのパラメータ。
defaultHostType	デフォルトのホストタイプとホストタイプインデックスを表示するためのパラメータ。
「特長」	ストレージアレイの機能設定を表示するためのパラメータ。
「healthStatus」	ストレージアレイの健全性、論理プロパティ、および物理コンポーネントのプロパティを表示するためのパラメータ。
「hostConnectivityReporting」のように入力します	ホスト接続レポート機能の有効設定ステータスを返すためのパラメータ。
「hostTypeTable」	コントローラが認識するすべてのホストタイプを表形式で表示するためのパラメータ。表の各行には、ホストタイプインデックスとホストタイプインデックスが表すプラットフォームが表示されます。

パラメータ	説明
「hotSpareCoverage」と入力します	ストレージレイ内でホットスペアが適用されるボリュームと適用されないボリュームに関する情報を表示するためのパラメータ。
iscsiNegotiationDefaults	イニシエータとターゲットのネゴシエーションによって決まる接続レベルの設定に関する情報を返すためのパラメータ。
'longRunningOperations'	<p>ストレージレイ内のボリュームグループおよびボリュームごとに実行時間の長い処理を表示するためのパラメータ。</p> <p>longRunningOperationパラメータは'次の情報を返します</p> <ul style="list-style-type: none"> • ボリュームグループまたはボリュームの名前 • 実行時間の長い処理です • ステータス • %完了 • 残り時間
「preredVolumeOwners」のように指定します	ストレージレイ内の各ボリュームの優先コントローラ所有者を表示するためのパラメータ。

パラメータ	説明
「プロファイル」	<p>ストレージアレイを構成する論理コンポーネントと物理コンポーネントのすべてのプロパティを表示するためのパラメータ。この情報は複数の画面に表示されます。</p> <div>  <p>profileパラメータを指定すると、ストレージアレイに関する詳細情報が返されます。この情報は、ディスプレイ上の複数の画面にわたって表示されます。場合によっては、すべての情報を表示するために、ディスプレイバッファのサイズを増やす必要があります。この情報は非常に詳細であるため、出力をファイルに保存することを推奨します。</p> </div> <p>プロファイル出力をファイルに保存するには、次のコマンドを使用します。</p> <pre>c:\...\smX\client>smcli 123.45.67.88 123.45.67.89 -c "show storagearray profile;" -o "c:\folder\storagearray profile.txt"</pre>
「概要」	ストレージアレイ構成に関する概要情報をリストで表示するためのパラメータ。
「time」	ストレージアレイ内の両方のコントローラに設定されている現在時刻を表示するためのパラメータ。
「unconfiguredIscsiInitiators」	ストレージアレイで検出されたイニシエータのうち、ストレージアレイポートに設定されていないイニシエータのリストを返すためのパラメータ。
'volumeDistribution'のように指定します	ストレージアレイ内の各ボリュームの現在のコントローラ所有者を表示するためのパラメータ。

注：

「profile」パラメータを指定すると、ストレージ・アレイに関する詳細情報が表示されます。この情報は、ディスプレイモニタの複数の画面に表示されます。場合によっては、すべての情報を表示するために、ディスプレイバッファのサイズを増やす必要があります。この情報は非常に詳細であるため、出力をファイルに保存することを推奨します。出力をファイルに保存するには、この例のような「show storageArray」コマンドを実

行します。

```
-c "show storageArray profile;" -o "c:\\folder\\storageArrayProfile.txt"
```

上記のコマンド構文は、Windowsオペレーティングシステムを実行しているホストを対象としています。実際の構文はオペレーティングシステムによって異なります。

ファイルに情報を保存する場合は、その情報を設定の記録として使用したり、リカバリ時に情報を参照したりできます。



ストレージアレイプロファイルからは大量のデータがラベルとともに返されますが、8.41リリースで、E2800またはE5700ストレージアレイのSSDドライブに関する消耗度レポート情報が新たに追加されました。以前の消耗度レポートに含まれる平均消去回数とスペアブロックの残量に関する情報に加えて、使用済み寿命の割合が追加されました。使用済み寿命は、これまでにSSDドライブに書き込まれたデータ量を、ドライブの理論上の合計書き込み量で割った値です。

「batteryAge」パラメータは、この形式で情報を返します。

```
Battery status: Optimal  
Age: 1 day(s)  
Days until replacement: 718 day(s)
```

新しいコントローラトレイは'batteryAge'パラメータをサポートしていません

defaultHostTypeパラメータは'この形式で情報を返します

```
Default host type: Linux (Host type index 6)
```

「healthStatus」パラメータは、この形式で情報を返します。

```
Storage array health status = optimal.
```

「hostTypeTable」パラメータは、この形式で情報を返します。

NVSRAM HOST TYPE INDEX DEFINITIONS

HOST TYPE	ALUA/AVT STATUS	ASSOCIATED INDEXS
AIX MPIO	Disabled	9
AVT_4M	Enabled	5
Factory Default	Disabled	0
HP-UX	Enabled	15
Linux (ATTO)	Enabled	24
Linux (DM-MP)	Disabled	6
Linux (Pathmanager)	Enabled	25
Mac OS	Enabled	22
ONTAP	Disabled	4
SVC	Enabled	18
Solaris (v11 or Later)	Enabled	17
Solaris (version 10 or earlier)	Disabled	2
VMWare	Enabled	10 (Default)
Windows	Enabled	1

「hotSpareCoverage」パラメータは、この形式で情報を返します。

```
The following volume groups are not protected: 2, 1
Total hot spare drives: 0
  Standby: 0
  In use: 0
```

'features'パラメータは'有効'無効'評価'およびインストール可能な機能を示す情報を返しますこのコマンドから返される機能情報の形式は次のとおりです。

PREMIUM FEATURE	STATUS
asyncMirror	Trial available
syncMirror	Trial available/Deactivated
thinProvisioning	Trial available
driveSlotLimit	Enabled (12 of 192 used)
snapImage	Enabled (0 of 512 used) - Trial version expires
m/d/y	
snapshot	Enabled (1 of 4 used)
storagePartition	Enabled (0 of 2 used)
volumeCopy	Enabled (1 of 511 used)
SSDSupport	Disabled (0 of 192 used) - Feature Key required
driveSecurity	Disabled - Feature Key required
enterpriseSecurityKeyMgr	Disabled - Feature Key required
highPerformanceTier	Disabled - Feature Key required

時刻パラメータは'この形式で情報を返します

```
Controller in Slot A

Date/Time: Thu Jun 03 14:54:55 MDT 2004
Controller in Slot B

Date/Time: Thu Jun 03 14:54:55 MDT 2004
```

'longRunningOperations'パラメータは'次の形式で情報を返します

LOGICAL DEVICES	OPERATION	STATUS	TIME REMAINING
Volume-2	Volume Disk Copy	10% COMPLETED	5 min

'longRunningOperations'パラメータによって返される情報フィールドには'次の意味があります

- 「name」は、長時間の処理が現在実行されているボリュームの名前です。ボリューム名には、「Volume」がプレフィックスとして含まれている必要があります。
- 「operation」は、ボリューム・グループまたはボリューム上で実行される操作を示します。
- '%complete'は'実行時間の長いオペレーションのどれだけが実行されたかを示します
- 「status」には、次のいずれかの意味があります。
 - Pending -長時間の処理はまだ開始されていませんが、現在の処理が完了したあとに開始されます。
 - 実行中—長時間の処理が開始されており'完了するか'ユーザーの要求によって停止されるまで実行されます
- 「残り時間」は、現在の長時間実行動作を完了するまでの残り時間を示します。「時間数と分数」の形式で指定します。残り時間が1時間未満の場合は、分だけが表示されます。残り時間が1分未満の場合は、「less than a minute」というメッセージが表示されます。

volumeDistributionパラメータは'次の形式で情報を返します

```
volume name: 10
    Current owner is controller in slot: A

volume name: CTL 0 Mirror Repository
    Current owner is controller in slot: A

volume name: Mirror Repository 1
    Current owner is controller in slot:A

volume name: 20
    Current owner is controller in slot:A

volume name: JCG_Remote_MirrorMenuTests
    Current owner is controller in slot:A
```

最小ファームウェアレベル

5.00で'defaultHostType'パラメータが追加されました

5.43で'summary'パラメータが追加されました

6.10で'volumeDistribution'パラメータが追加されました

6.14で'connections'パラメータが追加されました

7.10で、「autoSupportConfig」パラメータが追加されました。

7.77で、'longRunningOperations'パラメータが追加されました。

7.83で、ストレージ管理ソフトウェアバージョン10.83でリリースされた新機能のサポートを含む情報が返されるようになりました。また、ストレージアレイの機能のステータスも表示されるようになりました。

8.30で'autoLoadBalancingEnable'パラメータが追加されました

8.40で、「AutoSupport」パラメータが追加されました。

8.40で、「https」クライアントタイプで実行されているE2800またはE5700ストレージアレイに対する「autoSupportConfig」パラメータは廃止されました。

8.41で、SSDドライブの消耗度の監視がストレージアレイプロファイルに追加されました。この情報は、E2800およびE5700ストレージアレイでのみ表示されます。

8.42で、「hostConnectivityReporting」パラメータが追加されました。

8.63で'profile'パラメータ結果の下に'Resource-Provisioned Volumes'エントリが追加されました

同期ミラーリングボリュームの候補を表示する - SANtricity CLI

show SyncMirror candidates コマンドは、同期ミラーリング構成のセカンダリ・ボリュームとして使用できる、リモート・ストレージ・アレイ上のボリューム候補に関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、一部制限付きで個々のストレージアレイを環境に接続します。E2700またはE5600のアレイに対して実行する場合は、制限はありません。



このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、およびEF300のプラットフォームではサポートされていません。

ロール

該当なし

コンテキスト (Context)



このコマンドの以前のバージョンでは、機能識別子は「remoteMirror」でした。この機能識別子は有効ではなくなり、SyncMirror に置き換えられます。

構文

```
show syncMirror candidates primary="<em>volumeName</em>"
remoteStorageArrayName="<em>storageArrayName</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「プライマリ」	リモートミラーペアのプライマリボリュームにするローカルボリュームの名前。プライマリボリューム名は二重引用符 ("") で囲みます。
remoteStorageArrayName	セカンダリボリュームの候補となるボリュームが配置されているリモートストレージアレイ。リモートストレージアレイ名に特殊文字が含まれている場合は、リモートストレージアレイ名も二重引用符 ("") で囲む必要があります。

最小ファームウェアレベル

5.40

同期ミラーリングボリュームの同期の進行状況を表示する - SANtricity CLI

「show SyncMirror synchronizationProgress」 コマンドは、同期ミラーリング構成のプライマリボリュームとセカンダリボリューム間のデータ同期の進捗状況を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドの進捗状況は、完了したデータ同期の割合で示されます。



このコマンドの以前のバージョンでは、機能識別子は「remoteMirror」でした。この機能識別子は有効ではなくなりSyncMirror *に置き換えられます

構文

```
show syncMirror (localVolume [volumeName] |
localVolumes [volumeName1... volumeNameN])
synchronizationProgress
```

パラメータ

パラメータ	説明
「 volume 」	同期の進捗状況をチェックするリモートミラーペアのプライマリボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「ボリューム」	<p>同期の進捗状況をチェックするリモートミラーペアのプライマリボリュームの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。

最小ファームウェアレベル

5.40

Syslog 設定の表示 - SANtricity CLI

show syslog summary コマンドは、syslog アラートの設定情報を表示します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show syslog summary
```

パラメータ

なし

例

```
SYSLOG SUMMARY
  Default facility: 3
  Default tag: StorageArray
  Syslog format: rfc5424
  Syslog Servers
    Server Address          Port Number
    serverName1.company.com 514
    serverName2.company.com 514

SMcli completed successfully.
```

最小ファームウェアレベル

8.40

11.70.1では、syslogメッセージ形式を指定するための「syslogFormat」パラメータが追加されました。

文字列を表示 - SANtricity CLI

「show textstring」コマンドは、スクリプトファイルのテキスト文字列を表示します。このコマンドは、MS-DOSおよびUNIXの「echo」コマンドと似ています。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show "<em>textString</em>"
```

パラメータ

なし

注：

文字列は二重引用符（"）で囲みます。

最小ファームウェアレベル

6.10

ボリュームアクションの進行状況を表示する - SANtricity CLI

「show volume actionProgress」コマンドは、ボリューム上で長時間実行されている操作のボリューム操作および実行時間に関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト（Context）



ファームウェア・バージョン7.77では'show volume actionProgress'コマンドは廃止されました。このコマンドは、「show storageArray longRunningOperations」に置き換えてください。

完了している長時間の処理の量は割合で示されます（たとえば、25は長時間実行されている処理の25%が完了したことを意味します）。

構文

```
show volume [volumeName] actionProgress
```

パラメータ

パラメータ	説明
「 volume 」	長時間の処理に関する情報を取得するボリュームの名前。ボリューム名は角カッコ（[]）で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、名前を二重引用符（"）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。

ボリュームパフォーマンス統計を表示する - SANtricity CLI

show volume performanceStatsコマンドは、ボリュームのパフォーマンスに関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ストレージアレイ内の各ボリュームについて次の情報を返します。

- ストレージアレイ
- I/Oの合計数/秒
- 読み取り率
- プライマリ読み取りキャッシュヒット率
- プライマリ書き込みキャッシュヒット率
- SSDキャッシュヒット率
- 現在のMBs /秒
- 最大MBs /秒
- 現在のIO/秒
- 最大IOS/s
- 最小IOs /秒
- 平均IOs /秒
- 最小MBs /秒
- 平均MBs /秒
- 現在のIOレイテンシ
- 最大I/Oレイテンシ
- 最小I/Oレイテンシ
- 平均I/Oレイテンシ

構文

```
show (allVolumes | volume ["<em>volumeName</em>"]
volumes ["<em>volumeName1</em>" ... "<em>volumeNameN</em>"])
performanceStats
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	ストレージレイ内のすべてのボリュームに関するパフォーマンス統計を返すためのパラメータ。
「volume」	情報を取得するボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、名前を二重引用符 (") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「ボリューム」	<p>情報を取得する複数のボリュームの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• すべての名前は角かっこ ([]) で囲みます。• 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• すべての名前は角かっこ ([]) で囲みます。• 各名前は二重引用符 (") で囲みます。• 名前はそれぞれスペースで区切ります。

注：

「show volume performanceStat」コマンドを実行する前に、「set session performanceMonitorInterval」コマンドと「set session performanceMonitorIterations」コマンドを実行して、統計情報を収集する頻度を定義します。

「show volume performanceStat」コマンドは、次の例に示すように、ボリュームのパフォーマンス統計を返します。

```
Performance Monitor Statistics for Storage Array: Tyler -  
Date/Time: 11/6/12 10:00: 34 AM - Polling interval in seconds: 5
```

```
"Storage Arrays","Total IOs","Read %","Primary Read Cache Hit %",  
"Primary Write Cache Hit %","SSD Read Cache Hit %","Current MBs/sec",  
"Maximum MBs/sec","Current IOs/sec","Maximum IOs/sec","Minimum IOs/sec",  
"Average IOs/sec","Minimum MBs/sec","Average MBs/sec","Current IO  
Latency",  
"Maximum IO Latency","Minimum IO Latency","Average IO Latency"  
  
"Capture Iteration: 1","","","","","","","","","","","","","","","",""  
"Date/Time: 11/6/12 10:00:34  
AM","","","","","","","","","","","","","","","","",  
    "", "", "" "Volume  
Unnamed","0.0","","0.0","0.0","0.0","0.0","0.0","0.0","0.0","0.0",  
    "0.0","0.0","0.0","0.0","0.0","0.0","0.0"
```

最小ファームウェアレベル

6.10

ボリューム予約の表示 - SANtricity CLI

「show volume reservations」コマンドは、永続的予約が設定されているボリュームに関する情報を返します。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |  
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>]) reservations
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	ストレージレイ内のすべてのボリュームに関するパフォーマンス統計を返すためのパラメータ。
「volume」	情報を取得するボリュームの名前。ボリューム名は角カッコ（[]）で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、名前を二重引用符（""）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「ボリューム」	<p>情報を取得する複数のボリュームの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。• 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none">• すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。• 各名前は二重引用符（""）で囲みます。• 名前はそれぞれスペースで区切ります。

最小ファームウェアレベル

5.40

ボリュームの表示 - SANtricity CLI

show volume summary コマンドは、ボリュームに関する情報を返します

サポートされているレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト（Context）

このコマンドは、ストレージレイ内のボリュームについて次の情報を返します。

- ボリュームの数
- 名前
- ステータス
- 容量
- RAIDレベル
- ボリュームが配置されているボリュームグループ
- 詳細：
 - ボリュームID
 - サブシステムID
 - ドライブタイプ (SAS)
 - トレイ損失の保護
 - 優先所有者
 - 現在の所有者
 - セグメントサイズ
 - 修正の優先順位
 - 読み取りキャッシュのステータス (有効または無効)
 - 書き込みキャッシュのステータス (有効または無効)
 - バッテリなしの書き込みキャッシュのステータス (有効または無効)
 - ミラーリングありの書き込みキャッシュのステータス (有効または無効)
 - 書き込みキャッシュをフラッシュします
 - キャッシュ読み取りプリフェッチの設定 (TRUEまたはFALSE)
 - バックグラウンドメディアスキャンの有効化ステータス (有効または無効)
 - 冗長性チェックを伴うメディアスキャンのステータス (有効または無効)
- ミラーリポジトリボリューム

構文

```
show (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>]) summary
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	このパラメータは、ストレージレイ内のすべてのボリュームに関するパフォーマンス統計を返します。

パラメータ	説明
「volume」	情報を取得するボリュームの名前。ボリューム名は角カッコ（[]）で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、名前を二重引用符（""）で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「ボリューム」	<p>情報を取得する複数のボリュームの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ（[]）で囲みます。 • 各名前は二重引用符（""）で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「概要」	ボリュームに関する概要情報をリストで返すための設定。

シンボリュームの表示 - SANtricity CLI

show volume コマンドは指定したシン・ボリュームの拡張履歴または消費容量を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>])
(consumedCapacity |
(expansionHistory [file=<em>fileName</em>]))
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	ストレージレイ内のすべてのシンボリウムに関する情報を返すためのパラメータ。
「 volume 」	情報を取得するシンボリウムの名前。シンボリウム名は角カッコ ([]) で囲みます。シンボリウム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、シンボリウム名を二重引用符 (") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。
「ボリューム」	<p>情報を取得する複数のシンボリウムの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ ([]) で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。 <p>ボリューム名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべての名前は角カッコ ([]) で囲みます。 • 各名前は二重引用符 (") で囲みます。 • 名前はそれぞれスペースで区切ります。
「consumedCapacity」です	シンボリウムの消費容量に関する概要情報をリストで返すための設定。
「拡張の歴史」	シンボリウムの拡張履歴に関する概要情報をリストで返すための設定。
'file'	'file'パラメータは'expansionHistory'パラメータの出力をログに記録するファイルを指定します'file'は'expansionHistory'パラメータとともに使用する場合にのみ有効です無効なファイル名を指定すると、コマンドが失敗します。

注：

「expansionHistory」パラメータを指定すると、次の例のような情報が返されます。

「シン・ボリューム名：ボリューム名リポジトリ・ボリューム名：Repos_nnnn」

ログ時間	拡張タイプ	容量を開始します	容量の終了
MM/DD/YYYY HH:MM:SS	Manual (手動)	Automatic (自動)	nnnnnnnnnバイト

consumedCapacityパラメータを指定すると、次の例のような情報が返されます。

ボリューム	プロビジョニング済み容量	使用済み容量	クォータ	% Prov.消費済み
「VolumeName」	500.000 GB	230.000 GB	700.000 GB	46%

最小ファームウェアレベル

7.83

ボリュームコピーのターゲット候補を表示する - SANtricity CLI

「show VolumeCopy source targetCandidates」コマンドは、ボリュームコピー操作のターゲットとして使用できるボリューム候補に関する情報を返します。このコマンドは、Snapshotボリュームコピーペアに対して有効です。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show volumeCopy source ["<em>sourceName</em>"] targetCandidates
```

パラメータ

パラメータ	説明
「source」を参照してください	ターゲットボリュームの候補を探すソースボリュームの名前。ボリューム名は角カッコ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符 (") で囲んだ上で角カッコで囲む必要があります。

ボリュームコピーソース候補の表示 - SANtricity CLI

「show VolumeCopy sourceCandidates」コマンドは、ボリュームコピー操作のソースとして使用できるボリューム候補に関する情報を返します。このコマンドは、Snapshotボリュームコピーペアに対して有効です。

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show volumeCopy sourceCandidates
```

パラメータ

なし

注：

このコマンドから返されるボリュームコピーソース情報の例を次に示します。

```
Volume Name: finance
  Capacity: 4.0 GB
  Volume Group: 1
Volume Name: engineering
  Capacity: 4.0 GB
  Volume Group: 2
```

ボリュームコピーの表示 - SANtricity CLI

show VolumeCopyコマンドは、ボリューム・コピー操作に関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト（Context）

このコマンドは、ボリュームコピー処理に関する次の情報を返します。

- コピーステータス
- 開始タイムスタンプ
- 完了タイムスタンプ
- コピー優先度
- ソースボリュームまたはターゲットボリュームのWorld Wide Identifier（WWID）
- ターゲットボリュームの読み取り専用属性設定

ストレージアレイ内の特定のボリュームコピーペアまたはすべてのボリュームコピーペアの情報を取得できます。このコマンドは、Snapshotボリュームコピーペアに対して有効です。

構文

```
show volumeCopy (allVolumes | source ["<em>sourceName</em>"] |  
target ["<em>targetName</em>"])
```

パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	すべてのボリュームコピーペアでのボリュームコピー処理に関する情報を返すための設定。
「source」を参照してください	情報を取得するソースボリュームの名前。ソースボリューム名は、二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
「target」と入力します	情報を取得するターゲットボリュームの名前。ターゲットボリューム名は、二重引用符（"）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。

ボリュームグループのエクスポート依存関係を表示する - SANtricity CLI

show volumeGroup exportDependenciesコマンドは、あるストレージ・アレイから別のストレージ・アレイに移動するボリューム・グループ内のドライブの依存関係のリストを

表示します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] exportDependencies
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	エクスポート依存関係を表示するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。

注：

このコマンドは、ボリュームグループ内のドライブをスピンアップし、DACstoreを読み取った上で、ボリュームグループのインポート依存関係のリストを表示します。ボリュームグループはエクスポート状態または強制状態である必要があります。

最小ファームウェアレベル

7.10

ボリュームグループのインポート依存関係を表示する - SANtricity CLI

show volumeGroup importDependenciesコマンドはあるストレージ・アレイから別のストレージ・アレイに移動するボリューム・グループ内のドライブの依存関係のリストを表示します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

構文

```
show volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] importDependencies  
[cancelImport=(TRUE | FALSE)]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	インポート依存関係を表示するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。
「cancelImport」	ボリュームグループの依存関係を読み取ったあとにドライブをスピンドウンするための設定。ドライブをスピンドウンするにはこのパラメータをTRUEに設定しますドライブを回転させたままにするにはこのパラメータをFALSEに設定します

注：

このコマンドは特定のボリュームグループの依存関係を返します。ボリュームグループはエクスポート状態または強制状態である必要があります。表示された依存関係を維持することを決定した場合はcancelImportパラメータを適用してドライブをスピンドウンできます

start volumeGroup importコマンドを実行する前にshow volumeGroup importDependenciesコマンドを実行する必要があります

最小ファームウェアレベル

7.10

ボリュームグループの表示 - SANtricity CLI

show volumeGroupコマンドは'ボリューム・グループに関する情報を返します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

コンテキスト (Context)

このコマンドは、ボリュームグループに関する次の情報を返します。

- ステータス（最適、デグレード、失敗、不明など）
- 容量
- 現在の所有者（スロットAのコントローラまたはスロットBのコントローラ）
- RAIDレベル
- ドライブメディアタイプ（HDDまたはSSD）
- ドライブインターフェイスタイプ（Fibre Channel、iSCSI、InfiniBand、SAS）
- トレイ損失の保護（yesまたはno）
- セキュリティ対応-ボリュームグループがセキュリティ対応ドライブだけで構成されているかどうかを示します。セキュリティ対応ドライブには、FDEドライブとFIPSドライブがあります。
- セキュア-ボリュームグループでドライブセキュリティがオンになっている（セキュリティ有効）かどうかを示します。
- 関連付けられているボリュームと空き容量
- 関連付けられているドライブ
- Data Assurance機能およびData Assuranceが有効なボリュームがある
- リソースプロビジョニング機能

構文

```
show volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	情報を表示するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。

注：

このコマンドから返されるボリュームグループ情報の例を次に示します。

Name: SecureGroup

Status: Optimal

Capacity: 120.000 GB

Current owner: Controller in slot A

Quality of Service (QoS) Attributes

RAID level: 5

Drive media type: Hard Disk Drive

Drive interface type: SAS

Shelf loss protection: No

Secure Capable: Yes

Secure: No

Data Assurance (DA) capable: Yes

DA enabled volume present: No

Resource-provisioned: Yes

Total Volumes: 1

Standard volumes: 1

Repository volumes: 0

Free Capacity: 110.000 GB

Associated drives - present (in piece order)

Total drives present: 5

Tray	Slot
99	1
99	2
99	3
99	4
99	5

最小ファームウェアレベル

6.10

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。